

令和 7 年 度

社会福祉法人 遠矢七五三会事業計画書

事業期間 令和 7 年 4 月 1 日～令和 8 年 3 月 3 1 日

会議等の開催計画

(1) 理事会の開催

令和7年度においても、定款に定める事項のほか必要に応じて、法人並びに施設運営全般に亘り理事会に諮り、適正な運営を図ってまいります。

また、すみれ保育園、むつみ保育園、さくら保育園が一体となった、安定した経営と保育の充実に努めてまいります。

開催予定日	協 議 事 項
令和7年5月下旬	第1回理事会 ・令和6年度事業報告・決算認定 ・令和7年度各拠点区分資金収支補正予算 ・定時評議委員会の招集
令和7年6月中旬	第2回理事会 ・理事長・常務理事の選任
令和7年8月下旬	第3回理事会 ・令和7年度各拠点区分資金収支補正予算
令和7年12月上旬	第4回理事会 ・令和7年度各拠点区分資金収支補正予算
令和8年3月中旬	第5回理事会 ・令和7年度各拠点区分資金収支補正予算 ・令和8年度各拠点区分事業計画（案） ・令和8年度各拠点区分資金収支予算（案）

(2) 定時評議員会の開催

令和7年6月中旬	事業報告、貸借対照表、収支計算書及び附属明細書の承認、役員の選任
----------	----------------------------------

平成29年4月1日社会福祉法人制度改革により議決機関として評議員を必置。社会福祉法人として地域福祉事業の適正な運営に努めてまいります。

(3) 評議員選任・解任委員会

必要に応じて開催します。

(4) 監査の実施

定款並びに経理規定等に定めるところにより、一般・経理事務をはじめ資産の管理、施設運営全般に亘り、適正な監査を実施してまいります。

なお、外部監査の実施について、引き続き検討してまいります。

開催予定日	監 査 事 項
令和7年 5月上旬	令和6年度決算監査
令和7年 7月下旬	施設運営全般定期監査
令和7年10月下旬	施設運営全般定期監査
令和8年 1月下旬	施設運営全般定期監査

※ その他必要に応じて実施します。

(5) 理事・監事・評議員研修会の開催

社会福祉法人としての経営、保育園の施設運営の在り方について、研修を実施する。

- ・役員等の研修
- ・他施設の見学
- ・講師招聘による研修会

(6) 職員研修

保育内容の充実や保育者としての資質向上に努めるとともに、保護者から信頼され利用しやすい保育園を目指して、研修・実技講習等に積極的に参加してまいります。

区 分	研 修 内 容
園 内 研 修	毎月定例日を設定し、全職員が参加しケース別・課題別に研修し、保育技術の向上を図り、児童の健全育成に努める。
法人全体研修	年1回、全職員が一同に会し、法人職員として、より幅広いスキルと視野を持ち、効果的に職務を遂行する知識とスキルの向上を図り、地域福祉の向上に貢献できる職員の育成に努める。
保育士専門研修	北海道社会福祉協議会の主催する各種専門研修に参加し、帰園後は園内研修で還元し更に技術の習得に努める。
その他の研修	管内保育連合会、民間福祉諸団体の主催する研修会にも保育業務を調整して参加し、情報を得て技術の向上を図る。

令和7年度すみれ保育園事業計画（案）

入園児童予定数は、0歳児1名、1.2歳児10名、3歳児7名、4歳以上児16名、計34名の予定で運営してまいります。今年度は定員を満たさずの運営となりますが、その分、より一層子どもたちと深く関り保育をしていきたいと思っております。また、入所希望に対しては随時受け入れ、地域の要望に対応してまいります。

障がい児保育にも取り組み、引き続き令和7年度も特別な支援の必要な児童1名を受け入れます。その他にも支援が必要な児童もいますので児童や保護者の気持ちに寄り添い関係各所と連携しながら児童の育ちを支える保育環境を整え、障害児担当保育士を配置する予定であります。

保育園運営にあたっては、各家庭の環境や児童の状態が様々な中で保護者の協力の下に家庭養育の補完を行い、子どもが健康、安全で、情緒の安定した生活が出来る環境を用意し心身の健全な発達を願い、更に子ども達が自ら考える環境、主体性を育む保育を引き続き行い心豊かな活動が展開されるよう配慮してまいります。

施設や屋外遊技場等の危険防止については、安全管理の徹底を図るとともに施設以外の事故防止、不審者、防災に対する情報交換など地域関係機関との連携を強化し事故の未然防止の取り組みを継続し職員の防災意識の向上を目指します。

今年度も、むつみ保育園、さくら保育園と協力し合い保育の質の向上に取り組んでまいります。

令和 7 年度むつみ保育園事業計画(案)

むつみ保育園は当地域に置きまして、新入園児 7 名を含め 51 名の予定で運営していきます。途中入園の希望があれば随時受け入れていきます。

保育園運営にあたっては、各家庭の環境や子どもの発達や発育が様々な中、心身ともに健やかに成長できるように、個々に必要なかわりや支援を、考え実行できるように努めます。保育園が子ども達にとって安心できる場所で、毎日楽しく興味や好奇心が広がる活動を展開していきます。集団生活の中では、様々な経験を通し、社会性を身につけ、自ら考えて遊びや経験を広げ、主体性を育む保育を目指します。保護者とのコミュニケーションを大切に、保育士との信頼関係を深め、子育てに対する不安や困りごとに寄り添い、いつでも相談でき、子どもの育ちを一緒に見守っていけるよう取り組んでいきます。

障がい児保育にも取り組み、令和 7 年度は 1 名の支援が必要な児童を受け入れ、関係各所と連携を取りながら、特性を理解し関わり方や支援の方法等保育士全員が共通理解し、児童や保護者の気持ちに寄り添い育ちを支えていきます。

更に、地域との連携を保ち、あらゆる状況においても児童の安全を第一に行動します。有事の際に職員が落ち着いて行動、判断ができるよう訓練や研修に励み防災に対する意識の向上を目指します。

令和 7 年度もすみれ保育園、さくら保育園と協力し合い、情報を共有し、交流を深め、保育の質の向上に努め、職員の仕事の負担軽減に取り組み働きやすい職場になるように努力し法人の発展を目指します。

令和 7 年度さくら保育園事業計画（案）

さくら保育園は環境豊かな住宅地の中に、地域に密着した多機能型児童福祉施設として、保育園事業の他、学童保育、子育て支援センター、一時預かり事業、延長保育事業を行っております。

今年度の保育園入園児童数 11 名の新入園児を含め 61 名の予定で運営してまいります。生後 57 日目から就学前までの乳幼児を、午前 7 時から午後 7 時まで受け入れ、保護者のニーズに対応していきます。

保育園運営にあたっては、各家庭の環境や状態も様々な中、子どもの安全で健康な生活を保障し、体を動かし遊びの中から丈夫な体をつくり、集団で生活する中で、色々な人と関わり、社会性を身につけると共に、子ども達が自分で考え、遊びや経験を広げていけるような子どもの主体性を育む保育を目指し、環境を整えていきます。

また、今年度は 5 名の障がい児を受け入れ、3 名の障がい児担当保育士を配置する予定です。当該児童の特徴や関り方を担当保育士だけでなく、全保育士が共有しクラスの中で、他児と一緒に活動が出来るような工夫や、関わりが出来るよう関係各所の協力をいただきながら進めていきます。

防災に関しては、子どもの安全を第一に考え、保育士が有事の際に的確な判断や指示、誘導できるよう訓練に励み、職員の危機管理の意識を高めていきます。

法人三園が互いに理解を深め、力を合わせて様々な問題を共通理解し、少しでも向上、前進できるよう知恵を出し合い取り組み、法人の発展を目指します。

平成 7 年度

社会福祉法人遠矢七五三会 各保育園

全体的な計画

すみれ保育園全体的な計画 1 ページ

むつみ保育園全体的な計画 15 ページ

さくら保育園全体的な計画 29 ページ

令和 7 年度 すみれ保育園全体的な計画

- 1、全体的な計画
- 2、食育計画
- 3、交通安全計画
- 4、保健計画
- 5、安全計画
- 6、発達年齢別保育内容

令和7年度 社会福祉法人 遠矢七五三会 すみれ保育園全体的な計画

保育理念		・子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼される保育園を目指す					保育所保育に関する基本原則	保育の方法・環境	保育所の社会的責任	
保育目標		・よく遊び元気がたくましい子 ・心豊かに表現する子 ・自分で考え行動する子					保育時間 休日など	健康・安全で情緒の安定した生活が出来る環境を築き、一人一人の発達過程に応じ、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように、生活や遊びを通して総合的に保育する。保護者を理解し適切に援助する。	人権に配慮する。子どもの人権を尊重する。地域社会との交流や連携を図り、保育園の内容を適切に説明する。個人情報保護を適切に扱い、保護者の苦情解決を図るよう努める。	
定員 受入児童		・40名 ・生後3か月以上					・午前7時30分～午後6時30分 ・日曜日、祝日 年末年始			
クラス編成		・うさぎぐみ(0歳児) ・ぞうぐみ(1歳児) ・ぱんだぐみ(2歳児) ・らいおんぐみ(3歳児) ・らいおんぐみ(4歳児) ・らいおんぐみ(5歳児)								・保育園開放 ・障がい児保育 ・遠矢七五三合同サッカー大会
主な園行事		入園式/誕生会/内科検診/歯科検診/運動会/七夕/遠足/お店屋さんごっこ/七五三集会/発表会/クリスマス会/雪上運動会/節分集会 ひな祭り会/お祝い会/卒園式/修了式/避難訓練/大避難訓練/総合避難訓練/クラス別懇談会								
発達の特徴		6か月未満	6か月～12か月未満	1歳～2歳未満	2歳	3歳	4歳	5歳以上	幼児教育を行う施設として共有すべき事項	
		・身長、体重の著しい増加 ・言のすわり、活発な手足の動き ・寝返り、腹ばいなどの全身運動 ・抱き、聴覚などの著しい発達 ・特定の大人との情緒的な絆	・歩行による行動範囲の拡大 ・象徴機能の発達 ・言葉(二語文)の習得 ・周囲の人への興味・関心 ・自己主張、自我の芽生え	・基本的な運動機能の発達 (歩く、跳ぶ、指先) ・言葉を使うことの喜び ・友達との関わりが増加 ・ごっこ遊びと社会性の発達	・全身バランスの発達 ・身近な環境への関わり・遊びの体得 ・想像力の広がり ・克服の経験 ・自己主張と他者の受容	・基本的な生活習慣の確立 ・運動機能の高まり ・目的のある集団行動 ・思考力の芽生え ・仲間の中の人としての自覚			生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、保育の目標を踏まえ、資質・能力の3本の柱を一体的に育むよう努める。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」に合わせ、及び内容に基づく保育活動全体を通して、資質・能力が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な資質・能力を、保育士等が指導を行う際に考慮する。	
ねらいと内容		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児		小学校との連携(小学校教育との接続)	
養護	生命の保持	生活リズムの形成や保健的な対応	生命の保持	快適な生活や生理的欲求の充実	自我の育ちや健康状態の把握	基本的な生活習慣の確立や個々に応じた援助	生理的欲求の満足や身体への十分な活動	更なる健康増進や子どもの意欲の高まり	保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることに配慮し、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度などの基礎を築く。育まれた資質・能力を踏まえ、小学校教師との意見交換、研究の機会などを提供し「幼児期の終わりまでで育ってほしい姿」を共有するとして保育所保育と小学校教育との円滑な接続につなげる。子どもに関する情報共有に関して、就学に際し、市町村の支援の下に子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにする。	
	情緒の安定	応答的な関わりや情緒的な絆の形成	情緒の安定	人と物との関わりでの理解	自己主張への配慮や探索意欲の育成	自我を大切にしたい主体性の育成	探索活動の深まりや想像力を豊かに	心身の満足な癒しや活動内容のバランス、調和		
	健康やかに伸び育つ	個人差への配慮や健康な心と体の育ち	健康	運動機能の発達と自発的な活動意欲	基本的機能の充実と習慣への意欲	生活の場への親しみと健康的な遊びの充実	自主性や自立心の育成や病気予防、安全への関心	小学校以上の教育との接続に鑑みて		
	身近な人たちが通じ合う	受容的、応答的な関わりの下での人との深い、関わり	人間関係	身近な人との関わりによる自立心の育成	友達との共感や関係構築の養成	信頼関係の深まりと道徳性の芽生え	愛情と信頼感の深まりや友達との関わりでの育成	広い関係性の中での協同的な活動		「思考力・判断力・表現力等」に関するものもある。また、この資質・能力を実現するためにアクティブラーニングを用いる。
			環境	探索活動を通して、感覚の働きを豊かに	自然現象への関心、環境を捉える感覚の育成	身近な事象への探求心の深まりへの関心	数量、図形、標識、文字などへの関心			幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目
教育	身近なものや関わり性が育つ	身近な環境への興味関心を持った関わりと表現しようとする意欲	言葉	言葉のやりとりでの楽しさや二語文の話し始め	言葉の美しさ、楽しさへの気づき及び生活に必要な言葉の理解と使用	豊富な言葉の使用や言葉の楽しさの広まり	文字伝達の楽しさへの気づきや読書の関心	社会生活との関わり	ア 豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」 イ 気付いたことや、できるようなったことなどを使い、考えた、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力、判断力、表現力等」の基礎」 ウ 心情、意欲、態度が育つ中で、よりよい生活を送ろうとする「学びに向かう力、人間性等」	
			言葉	言葉のやりとりでの楽しさや二語文の話し始め	言葉の美しさ、楽しさへの気づき及び生活に必要な言葉の理解と使用	豊富な言葉の使用や言葉の楽しさの広まり	文字伝達の楽しさへの気づきや読書の関心	社会生活との関わり		社会生活との関わり
			言葉	言葉のやりとりでの楽しさや二語文の話し始め	言葉の美しさ、楽しさへの気づき及び生活に必要な言葉の理解と使用	豊富な言葉の使用や言葉の楽しさの広まり	文字伝達の楽しさへの気づきや読書の関心	社会生活との関わり		社会生活との関わり
			言葉	言葉のやりとりでの楽しさや二語文の話し始め	言葉の美しさ、楽しさへの気づき及び生活に必要な言葉の理解と使用	豊富な言葉の使用や言葉の楽しさの広まり	文字伝達の楽しさへの気づきや読書の関心	社会生活との関わり		社会生活との関わり
			言葉	言葉のやりとりでの楽しさや二語文の話し始め	言葉の美しさ、楽しさへの気づき及び生活に必要な言葉の理解と使用	豊富な言葉の使用や言葉の楽しさの広まり	文字伝達の楽しさへの気づきや読書の関心	社会生活との関わり		社会生活との関わり
健康支援/状況把握・疾病対応		健康及び発育発達状況の定期的、継続的な把握 ・年間保健計画 ・年1回職員健康診断及び毎月の検便(調理員・調理担当者)	5領域との相関性を構築する ・栄養バランスを考えた自園給食の提供 ・食事活動の実施 ・行事食の提供 ・菜園づくりの実施 ・年1回の嗜好調査	環境衛生管理・安全対策 別に定める「安全対策マニュアル」に基づき ・施設内外の設備、用具等の清掃及び消毒等 安全管理及び自主点検 ・子ども及び職員の清潔保持 ・感染予防、実施及び保護者との情報共有	災害への備え(避難計画別紙)	子育て支援 教育及び児童福祉としての保育並びに子育て支援の有機的な連携を図られ、子どもの成長に資付き、子育ての喜びが感じられるよう子育て支援に努める	職員の資質向上(研修計画)	自己評価	情報公開等	
									・人権尊重・虐待確認保護 ・個人情報保護 ・虐待相談解決対応及び第三者委員運営委員会の設置 ・ホームページの開設 ・障がい児保育等	

発達過程	ね ら い	内 容	配 慮 事 項
6か月未満	・お腹がすき、乳(ミルク)を飲みたい時飲みたいだけ ゆっくりと飲む	・よく遊び、よく眠る ・お腹がすいたら泣いて知らせる	・一人一人の子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する ・ミルクを与える時に優しく声をかけたり、微笑みかけたりして安心感を与える。 ・泣いて知らせている時はやさしい言葉で答えて信頼、愛情の基盤を育てるよう配慮する。
6か月～12か月未満	・お腹がすき、乳(ミルク)を吸い、離乳食を喜んで食べ、心地良い生活を味わう ・色々な食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で食べようとする	・よく遊び、よく眠り、満足するまで乳(ミルク)を吸う ・お腹がすいたら泣くまたは喃語によって乳や食べ物を催促する ・色々な食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする ・ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	・お腹がすき、乳や食べ物を催促することが生きていく事の欲求の表出につながる事を踏まえ、色々な食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むようにする ・子どもの咀嚼の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さ等の調理形態に配慮する ・一人一人の子どもの発育・発達状態を適切に把握し、家庭との連携を取りながら、個人差に配慮する ・食卓と人間関係が密接にある事を踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で、応答的な授乳及び食事での関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する
1歳～2歳未満	・お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地良い生活を味わう ・いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して、自分で進んで食べようとする	・よく遊び、よく眠り、満足するまで食事を楽しむ ・色々な食べ物に関心を持ち、手づかみまたはスプーン、フォークなどを使つて自分から意欲的に食べようとする ・食事の前後や汚れた時は、顔や手を拭き、きれいになった快さを感じる ・楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人に関心を持つ	・子どもが食べ物に興味を持って自ら意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する ・食事の時は一緒に噛む真似を見せたり、噛む事の大切さが身につくように配慮する。また、少しずつ色々な物に接する事ができるよう配慮する ・清潔の習慣については子どもの食べる意欲を損なわないよう、一人一人の状態に応じて関わる
2歳	・色々な種類の食べ物や料理を味わう ・食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ ・保育士を仲立ちとして、友達と共に食事を進め一緒に食べる楽しさを味わう	・よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ・食べ物に関心を持ち、自分で進んでスプーンフォーク等を使って食べようとする ・保育士の手助けによって、うがい手洗い、身の回りを清潔にし食生活に必要な活動を自分でする ・楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ ・色々な食べ物を選んで食べる ・身近な動植物をはじめ、自然現象を見たり触れたりする ・保育者を仲立ちとして、友達と共に食事を進める事の喜びを味わう ・箸に興味を持つ。	・食べ物に興味を持ち自主的に食べようとする姿を尊重する。また色々な食べ物に接することができるようにする ・自然や身近な物への触れ合いにおいては、安全や衛生面に留意する。また保育士がまず親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自らしてみようと思う気持ちを大切にすること ・友達や大人とテーブルを囲んで、食事を進める雰囲気づくりに配慮すること。また、楽しい食事の進め方を気づかせていく ・箸の持ち方は、食事に影響しない程度に声をかけ知らせていく
3歳	・できるだけ多くの種類の食べ物や料理を味わう ・自分で食事が出来る事、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう ・食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける ・大人と一緒に食事をし、会話を通して色々な事を学ぶ ・栽培、食事等を通して身近な存在に親しみをもち、すべての命を大切にすることを心を持つ	・好きな物をおいしく食べる ・様々な食べ物を選んで食べる ・健康な生活リズムを身につける ・身近な大人や友達とともに、食事をすることを喜ぶ ・同じ料理を食べたり、分け合つて食事をすることを喜ぶ ・身近な動植物に関心を持つ ・食習慣の基本を身につける ・よく噛んでしつかりと飲み込むようにする ・自分達が植えた野菜の世話をし、成長、変化を見守りながら、収穫まで楽しみに待つ ・箸の持ち方を知り、自分から使ってみようとする	・子どもが遊びや睡眠、排泄などの諸活動をバランスよく展開し、食欲を育むよう配慮する ・食前、食後の挨拶をし、食前には手洗い消毒をする ・食具が上手に使える、よく噛んで食べるなどの基本的な食習慣を身につけるように働きかける ・友達や大人と楽しく食事を進められるよう配慮し食べる意欲につながるよう雰囲気作りをする ・身近な動植物に関心を持ち自分達で植えた野菜の成長に喜びを持って収穫出来るようにする ・箸の持ち方は、食事に影響しない程度に声をかけ知らせていく
4歳	・健康、安全などの食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ・様々な人々との会食を通して愛情や信頼感を持つ ・栽培、食事などを通して、身近な存在に親しみをもち全ての命を大切にすることを心を持つ ・調理に関心を持つ	・慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する ・うがい、手洗いなど身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ・食生活に必要な事を、友達と共に協力して進めて関わりを深め思いやりやりの気持ちを持つ ・食事の際には、安全に気をつけて行動する ・食べ物を通して日本の伝統と文化と食文化に関心を持つ ・自分達で育てた野菜の色、形、匂い、手触りなど美感し、みんなで食べ喜ぶ ・箸の持ち方を知り、自分から使ってみようとする。	・食習慣の形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら、主体的な活動を展開する中で身につくように配慮する ・身近な動植物に関わつて共感し合い、命を育む自然に感謝の気持ちを持つよう、自ら関わりようとする意欲を大切にすること ・様々な料理を通して素材に目を向け関心が養われるようにする ・大人との信頼関係に支えられて、自分自身の生活を確立していく事が基盤となる事を配慮する ・箸の持ち方は、食事に影響しない程度に声をかけ知らせていく
5歳	・色々な料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたり、様々な文化に気づく ・健康と食べ物との関係に気づく ・食習慣やマナーに気を付ける ・自然の恵みと働く事の大切さを知り、感謝の気持ちを持つ ・食事を味わう ・加工食品の原材料に興味と関心を持つ ・食べ物それぞれ食品によって、味や香りに特徴がある事を知る	・健康と食べ物との関係について関心を持つ ・肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができる事を知り、自然の恵みに感謝の気持ちを持つ ・調理している人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ・伝統的な食品加工に出会い味わう ・接辞や姿勢など気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ・野菜の収穫の時期を知り自分達で育てた野菜を食べる ・食材、色、形、香りなどに興味を持つ	・健康と食べ物との関係について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと子どもの発達に応じた内容に配慮する ・食品や料理を通して五感が発達するように創意工夫する ・自分達が収穫した野菜などの絵を描いたりして野菜の色々な特徴を知る事ができるようにする
6歳	・自分の身体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事を取ろうとする ・身近な自然に関わり、世話をすることで、料理との関係を考え食材に対する感覚を豊かにする ・食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気の中で食事を味わう ・色々な加工食品を見たり触れたりし、調理の方法や料理を知る	・自分の健康に関心を持ち、必要な食品を選んで取ろうとする ・栽培を通して食材の成長を喜び、調理する事で生かされる事を学ぶ ・調理してくれる人への感謝の気持ちを持つ ・自然の変化によって収穫されるものの大きさや出来具合が違うことを知る	・食べ物には過剰に食べたり、欠乏することにより心身の健康を害する事に気づくように配慮する ・買い物を通して食生活の関心を高めるよう家庭への協力を図る ・料理の名前を覚えたり、触れられるようにする

ねらい	・安全や危険の意味がわかり行動できる ・安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける			
	I 期(4・5・6月)	II 期(7・8・9月)	III 期(10・11・12月)	IV 期(1・2・3月)
ねらい	・散歩を通じて交通ルールを知る	・異年齢児の交流を通じて、ルールやマナーを身につけていく	・様々な公共施設や交通機関に興味関心を持ち、交通の危険を知り気をつけて歩く	・冬道の危険がわかり自ら気をつけて歩く
以上児	・道の右側を歩く ・車が来たらしゃがむ ・信号のない交差点では止まり右左右左を見てわたる	・異年齢児と手をつないで散歩をする(小さい子を内側にして歩く) ・信号や交差点の渡り方を知る	・バスに乗って園外保育へ行く ・社会見学に行き汽車やバスに乗る(年長児)	・雪や氷の状態に合わせて歩く事ができる ・防寒着、防寒靴などを履いて歩く
	・園周辺の道路を歩く ・乗り物の絵本や紙芝居を見る	・手をつないで歩く(保育者・お友達) ・交通安全に関する絵本、紙芝居を見る。	・以上児と手をつないで歩く	・防寒着、防寒靴などを履いて歩く
未満児	・園周辺の道路を歩く時の保育士の配置を確認 ・気をつけること(右側、手のつなぐ位置、前を向いて歩くなど)を確認 ・信号のない交差点での確認の仕方を保育士も一緒に声を出して行う	・道路の状況や状態に気を付けて歩いていけるようにする ・小さい子と手をつないでの歩き方を知らせていく ・信号の見方、横断歩道の渡り方など交通のルールを知る	・バスの乗り方やマナーを知り気をつけられるようにする ・様々な道の歩き方や小さい子と手をつないでの歩き方を知らせていく ・公共の場でのマナーを知り、自ら気をつけられるように声をかけていく	・雪や氷で滑りやすくなっている事など様々な状況を自分で気づけるようにする ・滑りやすい所はどうかやってみたら良いか、転ばないか等みんなと話し合う機会をもつ

令和7年度 すみれ保育園 保健計画

年間計画	年間保健計画		年間保健計画	
	Ⅰ 期(4・5・6月)		Ⅱ 期(7・8・9月)	
	○生活リズムを整え、基本的生活習慣を身につける ○体のしくみを知り、体力づくりを通して自ら健康増進をはかる			
目 標	○一人一人の子どもの健康状態を把握し、園生活に慣れ安定感を持って過ごせるようにする ○衛生的な生活習慣に身につけ生理的欲求を十分に満たせるようにする ○思いやりや助け合う心を身につける ○リズム活動を通して全身を鍛え体力増進を図る	○夏の暑さに留意して、快適に生活できるようにする ○水遊びを楽しむ、健康増進をはかれるようにする ○ケガ防止に努め、戸外での全身運動をし、適度な運動、休息をとり心身の疲れが癒されるようにする ○リズム活動を通して全身を鍛え体力増進を図る	○様々な運動遊びを通して、体力増進をはかる ○身体のしくみについて、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする ○風邪予防に努め健康増進に積極的にはかれるようにする	○雪遊びを通して、体力増進と寒さに負けない体力づくりをする ○一人一人の子どもが集団遊びを通して主体として育ち、受け止められ自分を肯定できるようにする
活 動 内 容	○園の生活リズムを身につける ○内科検診を受ける ○散歩 ○ボール遊び ○身体測定、リズム遊び	○水遊び ○散歩 ○運動遊び（鉄棒、縄跳び、跳び箱） ○ボール遊び ○戸外遊び ○身体測定、リズム遊び	○散歩 ○戸外遊び ○ボール遊び ○内科検診 ○歯科検診 ○身体測定、リズム遊び	○雪遊び ○雪上運動会 ○ホールでの遊び （集団遊び、競争遊び、鬼ごっこ、ボール遊び、サッカー遊び）
留 意 点	○健康調査票の内容を把握し、安全で健康的に過ごせるように配慮する ○除去食がある子には保護者からの聞き取りと医師による診断をもとに、除去の実施をする ○保育室の室温や湿度、換気を付け配慮する ○すみれ保育園の安全対策マニュアルにそって保育室その他の整備、配慮をする	○水遊びには気温や日差しに気を付け、年齢によって遊ぶ時間に配慮する 遊んだ後は体を清潔にし十分休息が取れるようにする ○運動器具に慣れる所から始め無理せず楽しんで取り組める環境作りに心がける ○子ども達の状態を把握し、十分な配慮、休息や水分補給をとりながら遊ぶ ○汗をかいいた後の処理を自分で行う	○乾燥しがちになるので気温や湿度に十分気を付け、部屋の換気をする ○乾燥しているときは加湿器をつけたり、タオルを濡らして干し、湿度が保てるようにしていく	○雪遊びに必要な防寒着を身につけ寒さに対応出来るようにする ○手洗いやうがいの大切さを知り、風邪や伝染病に対する予防策を自分達で行えるようにする ○乾燥している時は、加湿器や洗濯物を利用して、湿度が保たれるようにしていく
保 護 者 へ の 指 導	○新入園児の健康調査票の記入 ○除去食の診断書提出 ○内科検診の結果報告 ○規則正しい生活習慣の大切さを知らせる ○薄着について	○夏の生活の仕方や感染症などの情報を知らせる	○流行ってきている伝染病の園での状況を知らせて、予防や対策について知らせる ○内科検診の報告 ○歯科検診の報告	○手洗いがいい、十分な睡眠、規則正しい生活習慣で風邪予防を心がける
環 境 整 備	○救急用品の点検補充 ○室内の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃(安全マニュアル) ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う	○水遊びの玩具は水洗いの後、日光に当て乾燥させる ○跳び箱などの用具の点検 ○園内外の清掃(安全マニュアル) ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う	○救急用品の点検及び消毒 ○園内外の清掃(安全マニュアル) ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う	○玩具の定期点検及び消毒 ○園内外の清掃(安全マニュアル) ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う

令和7年度 社会福祉法人 遠矢七五三会 すみれ保育園 安全計画

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
安全への配慮	乳児	○一人ひとりの生活リズムを知り体や発達の状態、ミルクの飲み方好み癖などを把握し、安心して過ごせる環境を整える ○発達に応じた探索活動が十分に出来る安全な環境を整える ○玩具の大きさや素材などに十分に注意する ○SIDSの発生の予防のため睡眠状態を観察する(特にあずけ始めは注意が必要) ○睡眠時は嘔吐物や寝具などで口や鼻がふさがらないよう見守る ○抱っこやおんぶをしている時は周囲に十分気を付ける ○保護者と十分コミュニケーションを密に取り、子どもの状態や生活の様子等情報を保育園での生活に活かしていく											
	1才以上3歳未満児	○SIDS発生の予防のため睡眠状態を観察する(特にあずけ始めは注意が必要) ○一人ひとりの発達の状態に応じた玩具や遊具を用意する ○水分や休息を十分に取り遊びや生活の中で、静と動のバランスをとっていく ○安全に配慮しながら職員を配置し、戸外遊び、水遊びを行う ○気温や湿度、室温をチェックしながら、適した温度や湿度を保つようにする。必要に応じて換気をする											
安全指導	3才以上児	○新しい環境、生活に必要な道具や場所の安全な使い方、約束を知る(室内、ホール、トイレ等) ○園外での遊び方、固定遊具の使い方、約束を知る ○散歩など交通ルールを知る											
	3才以上児	○暑い日の過ごし方を知る(熱中症予防、水分補給、汗の始末、休息等) ○戸外遊びの中、自分の状態がわかり、必要な休息の仕方を知る。 ○水遊びの約束を知り守って遊ぶ											
全体的な配慮事項		○毎日の出席、欠席、遅刻、早退児を把握し、職員間で共通認識をする ○欠席が続く時、連絡がつかない時は担当課に報告し情報を共有し、安否確認を行う ○室内外の活動は常に子どもたちの行動の把握に努め、職員間の役割分担明確にし声をかけ合って周りの状況、保育士の動きを把握できるように努める。○食事の際は注意事項(別紙)に添って一人ひとりの喫食状況や健康状態に十分気を付け、様子を観察する ○アレルギー児童の把握、本児の健康状態、食品除去の把握など職員間で情報、対応の共有の徹底 ○水遊びは監視体制を整え、職員の配置など役割分担し、共通理解のもと遊びをおこなう ○散歩に出る時は事前により目的地や経路を確認し、お散歩カーやベビーカーなどの点検をし安全を確認し使用する ○園外に出る時は人数確認をこまめにし確認する											
安全管理(施設・設備・内外環境)		○安全チェックリストによる毎月の点検を行う。 ○固定遊具の点検 ○砂場の衛生管理、消毒を行う ○消防設備の点検(年2回)											
安全に関する組織活動	避難訓練	○地震 保育士の指示を聞き避難の仕方を知る ○防火映画 防火に対する意識を持つ	○地震 保育室出火時の避難の仕方を知る	○総合訓練 職員通報、放送、消火訓練、児童の避難の訓練を一緒に行う	○風水害 竜巻が起きた時の避難の仕方、約束事を知る	○地震・津波 地震から津波が起きる事もある事を知り、落ち着いて行動する	○地震・津波 園避難所までの移動を経験する	○総合訓練 職員の通報、放送、消火の訓練 児童の避難の訓練を一緒に行う	○地震・火災 ○保育士の指示を聞き落ち着いて行動する	○地震 避難の仕方がわかり落ち着いて行動する	○地震 暴風雪が起きた時の避難の仕方、約束事を知る	○地震 雪遊びの最中の避難の仕方を知る	○地震 ○不審者対応 玄関から侵入してこようとしている時の対応
	保護者・地域との連携	○アプリ登録を行ってもらう。○感染症発症児が出た時は、保護者に周知し、症状等がある時は目安にし、受診時に情報提供してもらうようにする。○園周辺の防犯の情報の一報が入った時は直ちに保護者に周知し、安全に配慮できるようにする。○新入園の保護者には保育園の決まりや災害時の約束などを知らせ、有事の際に保護者がどうしたらよいか、園児の安全の確保の状態などを知らせ、慌てることの無いよう行動がとれるよう理解してもらう											
	研修等	○ヒヤリハットの共有・分析 ○アレルギー児童の確認対応は共有 ○安全マニュアルの確認 ○ケースの報告共有 ○水遊び対応についての確認理解 ○感染病対応、消毒、処置の仕方 ○救命救急 ○安全計画の見直し											

発達・年齢別 保育内容 【6か月未満】

6か月未満		○体重、身長の著しい増加 ○首のすわり、活発な手足の動き、寝返り、腹ばいなどの全身運動 ○視覚、聴覚などの著しい発達 ○特定の大人との間に情緒的な絆			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○家庭との連携を密にとりながら、子ども一人一人の健康状態を把握する ○体、衣服など常に清潔にする	○子どもの健康状態に合わせた環境を整える ○安全で清潔な玩具を用意する	○一人一人の生活リズムを考慮する ○保育者の愛情や豊かな関わりの中で、生理的要求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする	○安心できる環境の中、一人一人がゆったりと過ごし、授乳や睡眠などの生活リズムが整うようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○人に対する信頼感が芽生え、安定感となっていくように、子供が示す様々な行動や欲求に適切に応える	○泣くことで周囲とのやり取りをするので、空腹時や不快などの表れに共感し、受け止め対応していく	○自分が受け入れられているという気持ちを育めるよう、生理的欲求や精神的欲求を満たしてあげる	○ミルクを与える時やおむつ交換の時など、優しく声をかけたり微笑みかけたりして安心感を与える
保育のねらい		1) 心情	2) 意欲	3) 態度	
教育	伸び伸びと健康に育つ	○身体機能や感覚が著しく発達し、外気に触れたり、保健的で安全な環境でのびのびと手足を動かしたりする心地よさを知る ○おむつを取り替えてもらい、きれいな心地よさを感じる ○愛情豊かな特定の大人と過ごすことを喜ぶ	○保育者の声や物音に反応し、見つめたり喃語を発したり体を動かしたりして快・不快を表そうとする ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動きで、感情を表現しようとする	○生理的欲求を受け止めてもらったり優しい言葉かけを感じたりして、人に対する信頼感が芽生える ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動きや喃語などで、自分の欲求を伝えようとする	
	身近な人と気持ち通じ合う	○戸外に出て植物や乗り物、動物を見て興味を持つ ○周りの音や会話の声に関心を示し、その方向を見る ○あやされて笑いかえす ○自分の周辺の出来事に関心を示す	○身の回りにあるいろいろな遊具、玩具等に触れて遊べるようになる ○不快を取り除いてくれる保育者の声を、心地よいと感じる ○何かに目を留めると、じっとそれを見て掴もうとする	○絵本等を読んでもらったり、見せてもらう ○大人に言葉をかけてもらいながらミルクを飲む ○不快を取り除いてくれる保育者の声に応えて笑う ○自分が手に取ったものを動かすことで音がでることを知り楽しむ	
	身近なものに関わり	○自分に応答的に関わる特定の大人の声や表情に安心感を覚え、感覚が豊かになる ○音に興味を持ち、音の出るものを喜ぶ ○柔らかいものや温かいものなどの感触を楽しむ	○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで意思や欲求を表す ○特定の大人の声のする方をじっと見る	○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで意思や欲求を表す ○快感、安心感や不快感、嫌悪感を感じることを表し、快感、安心感を感じるものを求めようとする	

発達・年齢別 保育内容 【6か月～1歳未満】

6か月～1歳未満		○座る、はう、立つ、つたい歩き等の運動機能の発達 ○腕や手先を意図的に動かす ○探索活動の活発化 ○特定の大人との応答的な関わりによる情緒的絆が深まる ○あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる ○離乳食から幼児食へ徐々に移行 ○人見知りをするようになる ○自我の芽生え ○大人から自分に向けられた気持ち、簡単な言葉がわかるようになる ○身近な大人との関係の中で自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとする			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○家庭との連絡を密に取りながら、子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対処する	○家庭と連携を密にとりながら一人一人の健康状態を把握し、発育、発達に応じて関わる	○保育者の愛情豊かな関わりの中で、生理的欲求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする	○子どもが自分でやりたいという気持ちを受け止め、援助しながら満足感が感じられるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○保護者と密に連携を取り、子どもの気持ちを共有し、必要な対応を継続する事で安定感を持って過ごせるようにする	○子どもが気持ちを表現する喃語や身振りなどに優しく繰り返し応答していく	○自分以外の他人という存在を認め、自分の行動や存在を肯定する気持ちが育まれるように信頼関係を築いていく	○心が癒されるように視線を合わせたり、優しく声をかけたりする。微笑みかけたり喃語や声、表情に応えたりする。
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	伸びやかな育つ	○運動機能が発達し、自由に手足を使い周囲の人や物に興味を持ち探索活動を楽しむ ○あやしてもらおうと喜ぶ等、生活や遊びの中、身近な人に興味を持つ ○身近な大人との関わりを楽しむ	○自由に移動できる喜びと身近な環境への働きかけで好奇心がより旺盛になる。 ○喃語にこもった思いを保育者や大人にくみ取ってもらおうことで思いを伝える意欲が高まる ○受動的に関わる大人とのやり取りを楽しむ	○応答的な環境の中で特定の人との絆を深める ○同じものを見つめて共有して、大人とのやり取りを心地よく感じ、様々な経験を繰り返し試す ○離乳食から幼児食へ移行する ○身振りを真似する等して自分から関わろうとする	
	身近な人と気持ち通じ合う	○戸外に出て植物や乗り物、動物を見て興味を持つ ○異年齢児との触れ合いを持つようになる ○反復喃語が始まる ○情緒的、動作認識が発達する ○身振りや喃語で保育者とのやり取りを楽しむ	○気に入った遊具を手にして遊んだり、色々な素材の遊具で遊んだりする ○整えられた環境のもとで安全に活動できるようにする ○安心ができる大人がゆっくり優しく語りかけることで、口元の動きを模倣し声をだし言葉を真似ようとする	○絵本等を読んでもらったり、見せてもらう ○基本的な生活習慣を繰り返し体験していく ○正しい調音の模倣はできないが、模倣を繰り返し楽しむ	
	身近なものと関わり	○周囲の人や物に興味を持つ ○興味を持った素材に触れて感触を楽しむ ○情緒的なつながりの中であやしてもらう事を心地よく感じる ○大人に歌をうたってもらう事を楽しく感じる	○身近な大人に対し、意思や要求を表情や身振りで伝えようとする ○大人の歌に合わせて体を揺らしたり、リズムをとったりする	○大人の歌に合わせて体を揺らしたり、リズムをとったりする	

発達・年齢別 保育内容 【1歳～2歳未満】

1歳～2歳未満		○自発的に身近な人や周りの物に働きかける ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得 ○物のやり取りや取り合い		○大人の言う事が分かる ○自分の意思を大人に伝えようとする意欲の高まり ○指さし、身振り片言などを盛んに使う ○玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能の発達により人との関わりが強まる	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の心身の発達状況を的確に把握する ○室内外の温度や湿度に留意し衣服の調節をする	○歩行確立により行動範囲が広がり、歩き始めて歩行が安定しないため、事故防止に努める	○子ども一人一人の心身の発達・発達状況を把握する ○子ども一人一人の癖や特徴を把握する	○子どもが自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○子ども達が安心して生活できるように信頼関係を築き、探索活動を安全な環境の中、十分楽しめるような工夫をする	○子どもの言葉や指すものを理解し、興味や気持ちに寄り添いながら言葉にして返していく ○自己主張を受け止めながらぶつかり合いの仲立ちとなり、適切に自ら表現しようとする心育んでいく	○自分でやろうとする意欲を受け止め認めていく ○友達や周囲への興味や関心が高まり、子ども同士関わっていく	○心地よい環境の中、保育者とスキンシップをはかり、心の安定が得られるようにする ○自我の芽生えを喜び受け止めてもらう事により、気持ちを立て直していく心が育まれるにしてい
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
教育	健康	○歩行が確立し、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけながら好きな遊びに取り組む ○象徴機能が発達し、玩具を仲立ちして見立て遊びを楽しむ		○友達の仕草や行動を真似たり、やり取りが広がる ○行動範囲が広がり身近な環境への働きかけで好奇心旺盛になる ○身の回りの事を自分でしようとする	
	人間関係	○友達や周囲の人への興味や関心を持ち、一緒に過ごす事の喜びを味わう		○身近な大人や友達に関心を持ち、親しみを感じて関わろうとする	
	環境	○戸外遊びを通して草花、昆虫を見ることにより興味を持ち情緒を培う ○玩具を使った遊びの中で友達と関わりを持って遊ぶ		○異年齢児との触れ合いの中で玩具、玩具の遊びを通し、見たり触れたりして自分もやってみようとする	
	言葉	○言葉を使い始める ○指さし、身振りなどで自分の気持ちを表す		○経験の中で得た簡単な言葉を使って自分の気持ちを表そうとする	
	表現	○美しいものを好み、楽しむ ○好きなものが出てくる ○イメージを膨らませてその世界を自分で楽しむ		○指さしや身振り、片言等で親しい大人に対し自発的に意思を伝えようとする ○興味のある物を模倣をしようとする ○二語文を話し、意思を伝えようとする	
		3) 態度		○大人の言う事がわかり、自分で訴えるようになる ○信頼できる大人の存在により自信を持って物事に取り組むようになる	
				○様々な遊びを通して同じ事を楽しみ、子ども同士の関わりを持つ	
				○自分や友達(他人)の持ち物がわかり名前が言える ○玩具などの色、形、数などの言葉がけをして繰り返し行い、理解しようとする	
				○保育者等の応答的な関わりによって、片言、一語分。二語文を獲得する	
				○イメージを膨らませて、玩具や抽象的な実物に見立てる事ができる ○好きな絵本や歌がある	

発達・年齢別 保育内容 【2歳】

2歳		○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能、指先の機能の発達 ○身の回りのことを自分でしようとする ○友達を気にしたり、関わり、遊ぶことができる ○自分の意思や欲求を言葉で表現できる				○探索活動の活発化、自我の育ち、強い自己主張 ○物事の間の共通性を見い出す ○簡単なごっこ遊びを楽しむ			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする				
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態を把握し、保健的で安全な環境をつくり、生活習慣の自立を援助する	○運動機能の発達に伴い子どもの行動範囲や危険等十分に予測し、環境の安全管理に配慮する	○家庭との連携を十分にを行い一人一人に合わせて適切な生活リズムを整えていく	○楽しい雰囲気の中で食べる事への興味、食物の味を知らせ、食べる楽しさを味わえるようにしていく				
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする				
養護	情緒	○運動、指先機能が発達し、探索行動が十分楽しめるように一人一人の発達過程を把握し、欲求を満たしながら安全な環境づくりをする	○自己主張が強くなり、ぶつかり合いが多くなる中、保育者が仲立ちとなり安心できる環境を整え、適切に自己表現する心を育ていく	○子どもの成長、動きを把握し、気持ちの受容を共感しながら信頼関係を築き、自信につなげて意欲を受け止めていく	○自我の芽生え、自己主張等を受け止め喜怒哀楽を豊かにし、気持ちを抑えたり、立て直しができる心を育ていく				
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲		3) 態度			
教育	健康	○運動、指先機能の発達に伴い保育者、友達との関係を広げ、十分に体を使って遊ぶ ○ごっこ遊び、リズム遊び等を楽しむ ○身の回りの事を自分でする事が出来たことの喜びを味わう		○食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な活動を自分でしようとする ○生活、遊びの中で言葉が増え、やり取りを楽しみ、使い方を知っていく		○自我が育ち、自己主張や葛藤を経験する ○保育者との信頼関係を築き自信と安心を持って取り組む ○様々な遊びの経験の中で、簡単な良し悪しを学び、危険等の意識を持つ			
	人間関係	○保育者、友達との信頼関係を持ち、安心感を持って生活する事の喜びを味わう		○自分の意志や意欲を認めてもらう中で、自己アピールをしたり自信を持ち活動しようとする		○大人に見守られながら自分でできる事は自分でしようとする ○信頼関係を持ち安心して自分の意志を表そうとする			
	環境	○散歩や遊びを通じてその季節に親しみ、変化に触れ探索活動が盛んになり関心を持つとする		○自分の身の回りの事はできるだけ自分でしようとする ○食器、箸の持ち方、姿勢の習得、排泄の自立など大きな成長が見られる		○保育者や友達と一緒に様々な遊びを楽しむに好きな玩具や遊具に興味を持つ ○「自分で」との主張が見られる ○物の貸し借りのトラブルが増える			
	言葉	○自分の意志や要求を言葉で表現したり、やり取りをする事を楽しむ ○言葉や話に興味を持ち、親しみをもちって繰り返し使おうとする		○保育者等を仲立ちとして、遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ ○保育者、友達の言葉に興味関心を持つ		○保育者、友達との関わり遊びの中で言葉の数が増える ○絵本に親しみ、興味を持ち言葉を模倣し繰り返す事を楽しむ			
	表現	○自我が育ち始め好き嫌いを主張しようとする ○自然に十分に触れ、光、水、砂、土等の感触に慣れ親しみをもち ○紙、粘土、製作道具に触れ興味を持って楽しむ		○言葉が増え要求、主張を言葉で表現しようとする ○保育者、友達と自然に触れ様々な感触に気づいたりする ○興味のある物を模倣し自由に表現する		○大人と一緒にごっこ遊びを楽しむ中、イメージを膨らませ象徴機能の発達が見られる ○保育者と一緒に歌ったり手遊びをしたりリズムに合わせて体を動かして遊ぶ			

発達・年齢別 保育内容 【3歳】

3歳		○基本的な運動機能の伸び ○食事、排泄、衣類の着脱などがほぼ自立 ○話し言葉の基礎が出来上がる ○知的興味や関心の高まり		○自我がよりはっきりすると共に友達との関わりが深まるが平行遊びが主となる ○遊びに経験を取り入れるなど内容の発展性が見られる ○予想や意図、期待を持って行動できる	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態や発達を把握し、快適に過ごせるようにする	○施設内外の環境を整え安全に十分に配慮し、健康や安全の大切さを伝える ○保護者との連携を図り疾病予防に努める	○子どもの発達に応じ適切な援助や関わりを通じ、生理的要求を満たしながら生活リズムをつくっていく	○子どもの発達を見通し適度な運動、休息がとれるようにし、基本的生活習慣が形成されるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○子どもの主体性を育みながら様々な要求を受け止め安心感へとつなげる	○一人一人の欲求を受け止め、友達と上手に関わりが持てる言葉かけや見守りで援助する	○なぜ、どうしての興味への広がりには適切に応え、応答的な触れ合いを持つ	○お手伝い等の活動でねぎらいや感謝の言葉をかけ、心地よさや安心感を知らせ、受け止める
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
				3) 態度	
教育	健康	○運動機能が発達し、自由に伸び伸び遊びを楽しむ ○戸外遊びで十分に体を動かしたり、様々な遊具、用具に関わり遊ぶ楽しさを味わう		○保育者と一緒に簡単な身の回りの事を行い、出来る事への喜びや意欲を持つ ○興味関心が広がり遊具や用具に工夫を加え遊ぼうとする	
	人間関係	○身近な人との関わりを喜び、共感しながら楽しさを味わう		○様々な要求を受け止めてもらう事で、安心感を覚え相手の気持ちにも気付いていく	
	環境	○室内外での遊びを通じ、経験した事を遊びにつなげ、豊かな感性や興味が広がる		○基本的生活習慣が身につく生活の仕方を知る ○友達との関わりが多くなるなかで関わり方を知る	
	言葉	○言葉の発達が著しく、思った事感じたことを言葉や態度に表し、やり取りを楽しむ		○興味を持った事、不思議な事について質問をする ○自然や生活の中で不思議に思う事等を言葉で伝えようとする	
	表現	○様々な物を見たり触れたり、面白さや色、形に気づき感性を豊かに持つ ○遊び歌を繰り返して楽しむ		○身近な人の行動や興味を持った物を模倣し楽しむ ○一緒に絵本、絵画、歌に親しむ	
				○基本的生活習慣を進んで行い生活に見通しを持つ ○約束、ルールを守る大切さに気づき、危険に対し少しづつ意識を高める	
				○友達との関わりを深め共感しながら遊びを楽しむ ○共同の遊具を大切に扱う	
				○基本的生活習慣が身につく ○友達との関わりで仲立ち、見守りの援助を受けながら相手の気持ちにも触れていく	
				○質問ややり取りを通じ思った事を言葉で伝えようとする ○友達の表現した気持ちを受け止める	
				○生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ ○絵本を読んだり絵を描くことを一緒に楽しむ ○音楽に親しみ歌う事の楽しさを味わう	

発達・年齢別 保育内容 【4歳】

4歳		○全身のバランスを取る能力が発達し、動きが巧みになる ○身近な環境に積極的にに関わり、物の特性を知る ○想像力が豊かになり、目的を持って行動する ○仲間との強いつながりから、喧嘩が増す ○決まりの大切さに気付き、守ろうとする ○身近な人の気持ちを察したり、自分の気持ちを抑えるなどの我慢が出来る			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態や発達を把握し適切に対応し自ら気をつけるようにする	○子どもの健康や安全の大切さを知らせ安全な環境づくりに努める	○子どもが食事・排泄・睡眠・休息等に生理的欲求を満たせるようにし、安心して自分の気持ちを表せるように応答的な関わりを心がける	○子どもの発達を見通し、全身を使う運動を適度に取り入れ、それぞれに合った活動が出来るようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○日々の生活や遊びの中に安心感を持ち、伸び伸びと友達と関わっていきけるように援助する	○友達同士の遊びを豊かにし、友達との関係の中で徐々に自分を発揮できるように援助する	○お互いの存在や良さを認め合えるように集団の中で一人一人の良さを活かしていく	○生活の中で与えられた役割を責任を持って果たすことができ達成感を味わえるよう言葉がけを工夫する
保育のねらい		1) 心情	2) 意欲	3) 態度	
教育	健康	○全身を使い自然や様々な遊具や物と関わって運動量の多い遊びに挑戦する ○活動と休息のバランスがとれた生活リズムに心地よさを感じる	○五感で感じた事を発展させ、想像しながら遊ぼうとする ○目的を持ち予測して行動しようとする ○十分に遊んだ後は自ら水分や休息を取ろうとする	○自他を区別し保育者に共感してもらったり友達と競争したりしながら遊ぶ ○自分の体に興味関心を持ち健康であるために必要な食事や遊び、休息の大切さを知る ○自分の体の状態を意識し、異常を感じた時にはそれを保育者に伝える	
	人間関係	○仲間という事の喜びや楽しさをより感じながら仲間とのつながりを深める ○友達と一緒に活動する楽しさを知る	○友達の良さに気づき一緒に活動する事をしようとする ○関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の気持ちにも気づき優しさや思いやりに触れる	○自己を十分に発揮したり、他者と協調して生活したりする事を楽しむ ○自分から挨拶する事でコミュニケーション能力の基礎を身につける	
	環境	○自然等の身近な環境に積極的にに関わり様々な物の特性を知り、関わり方や遊び方を体験していく	○目的を持って行動し、造る、描く試事で想像を豊かにしていく	○決まりごとの大切さに気づき守ろうとする ○身近な人の気持ちを察し少しずつ感情のコントロールをする	
	言葉	○経験したことや思った事を話し、言葉で伝える楽しさを味わう ○自分の名前や文字に興味を持つ	○友達同士、言葉で伝え合いながら遊びの状況を理解しようとする ○興味を持った文字を探し読んでみようとする	○会話を通し友達との楽しさを感じるようになり、友達とのつながりを深める	
	表現	○生活の中で様々な音、形、手触り、動き、味、香り等に気づいたりして楽しむ ○感動を伝え合う楽しさを味わう ○色々な素材、用具、表現法に関心を持つ	○友達とイメージを言葉にして共有し、一緒に表現しようとする事を楽しむ ○イメージや目的を持って作ったり描いたりする ○音楽に合わせて歌ったり踊ることを楽しむ	○色々な素材や道具を使い、より広いイメージの世界を絵や製作物に表そうとする ○きれいなもの、美しいものを見たり集めたりする	

発達・年齢別 保育内容 【5歳】

5歳		○基本的な生活習慣が身に付く ○運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをしたり活発に遊ぶ ○言葉による共通のイメージを持つ ○目的に向かって集団で行動する ○自分なりに考えて判断したり相手に伝える力が身につく ○社会生活に必要な基本的な力を身につけていく ○仲間の一人としての自覚が生まれる			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合には自ら伝えられるようにする	○子どもの疾病や事故防止に関する意識を持ち、安全な環境づくりと事故防止に努める	○生理的要求が満たされる事の大切さに気付けるように関わる	○運動と休息の適切なバランスや調和を図りながら、基本的な生活習慣が身につくようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○一人一人の発達に合った遊びや生活の環境を構成し、時には励まし言葉をかけながら子供が様々な活動に安定的に関われるようにする	○集団生活の中で安心して言葉による伝達や対話ができるよう、日ごろから保育者や友達との信頼関係を築ける関わりをしていく	○他者から自分の存在を認めもらう事の喜びを感じ自己肯定感を育てていくように関わる	○誰かの為に働くことは自分の喜びにつながる事を一緒に体験し、その喜びを共感していく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
教育	健康	○大人と同様の複雑な運動や用具を使った作業ができるようになる ○保健的で安全な場所で思い切り遊べる心地よさを知る		○五感で感じた事を発展させ、想像しながら遊ぼうとする ○目的を持ち予測して行動しようとする ○十分遊んだ後は自ら水分や休息を取ろうとする	
	人間関係	○予想、見通しを立てて自分で行動できる事に自信を持つ ○生活や遊びの中で決まりがあることに気づき、考えながら行動する		○友達との関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたり優しさや思いやりを持つ ○友達との共通の目的を持ち協力してやり遂げようとする	
	環境	○園外での活動で違う環境に関心を持ち、その中で遊びや楽しさを見つける		○遊びの中で仲間意識を大切にし、色々な知識や経験を生かして工夫していけるようになる ○行事を楽しみながら待ち保育者に教えられた事を覚えていく	
	言葉	○自分で考えた事を言葉で表現をしたり、友達の意見を聞いたり気持ちを理解できたりする喜びを感じる ○自分の思いや要求、主張を言葉で伝える		○友達の主張に耳を傾けながら一つの目的に向かって一緒に行動しようとする ○自分の名前や五十音がわかり文字を読むことを楽しむ	
	表現	○色々な素材や用具を使っでの表現方法に関心を持つ ○友達や保育者に自分で作った物を見せたり友達と一緒に表現する事を楽しむ		○思っている事を言葉や動きで表現し、演じて遊んだり描いたり作ったりする ○生活の中で色々な事に触れ感情イメージを豊かにする	
		3) 態度		○遊びを発展させるために自分たちで考えを判断し、危険な場所や遊びを知り調整しようとする態度が生まれる ○相手を許したり、違う思いを認めたり、友達の良いところに気づき一緒に活動する楽しさを味わう ○物事の良し悪しに気づいていく ○絵本、紙芝居等を通じて言葉、文字、数、量、図形に興味を持って読んだり書く事を覚える ○色々な経験を通じて自立心が出てくる ○絵本や物語を通じ言葉を交わしたり友達や保育者とイメージを広げ楽しむ ○目的に向かってみんなで行動する ○描いたり作ったりしたものを見せあったり飾ったりする ○友達と共通の遊びを通しイメージを広げ遊びを発展させる	

発達・年齢別 保育内容 【6歳】

6歳		○全身運動が滑らかで巧みになる ○自信を持って、予想や見通しを立てる力が育ち、意欲が旺盛になる ○自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心が高まる		○役割分担が生まれるような共同遊びやごっこ遊びに満足するまで取り組む ○様々な経験を通して自立心が一層高まる ○自分達で決まりをつくる	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の発達状態を把握し、子どもが自らの体の異常を訴えられるようにする	○家庭との連携を密にし、子供の疾病や事故防止に関する認識を深め安心安全な保育環境をつくる	○生理的欲求が満たされ、その大切さを知り自主的に生活が出来るようにする	○子どもの発達に応じて適切な運動を楽しめるようにする ○子どもが休息の大切さを知り自らとれるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○一人一人の子どもの心身の状態を把握しその発達を援助する	○友達の主張に耳を傾け共感したり積極的に意見を言い合ったりできるような関係づくりをしていく	○仲間との葛藤を体験しながら互いを認め合い自らも肯定する気持ちが促されるように、一人一人の子供たちの育ちを認めていく	○達成感や自信を持つことで充実感を味わえるように保育者もその成長を認め一緒に喜び、子どもの心の安定を得られるようにしていく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
教育	健康	○全身運動が滑らかで巧みになると同時に手の動きが細やかになり自信を持って活動できる喜びを味わう ○元気に活動するためには生活リズムや食事、排泄、病気の予防などが大切な事に気づく		○自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んでしようとする ○災害や危険への認識がより一層高まる	
	人間関係	○予想や見通しを立てて自分の力で行動できる事に自信を持つ ○生活や遊びの中で決まりを守り考えながら行動する		○仲間の意思や仲間内で通用する約束事を大切に、守ろうとする ○友達との共通の目的を持ち協力して物事をやり遂げようとする	
	環境	○自信や予想見通しを立てる力が育ち、心身共に力があふれ意欲が旺盛になる		○遊びの中で仲間の意思を大切にしていき、様々な知識や経験を生かし創意工夫ができるようになる	
	言葉	○自分の考えた事を言葉で表現する事で、友達の意思や仲間内の約束事を大事に出来るようになる ○生活の中や絵本にある言葉の楽しさに気づき、文字で表す楽しさを味わう		○友達の主張に耳を傾け、一つの目的に向かって行動する ○自分の名前や五十音がわかり、文字に表そうとする	
	表現	○友達や大人に自分の表現した物を見せたり聞かせたりする事を楽しみ意見を求める ○友達と一緒に表現する事を楽しむ ○言葉への興味、関心がより高まる		○友達の意思を大切にしようとする ○イメージを動きや言葉等で表現したり演じて遊んだり楽しさを味わう	
		3) 態度		○健康に必要な日々の生活習慣を自ら進んで確立していく ○危ない遊びや非常時の行動がわかり保育者の指示を理解し危険を回避する行動がとれる	
		○思考力や認識力が高まり、自然事象や社会事象への興味や関心が深まり、それに伴い様々な経験を通して自立心が高まる		○意見を調整しながら友達との中で合意をえて、遊びを広げる ○文字に親しみ活動の中で伝え合う喜びを感じる	
		○友達とイメージを共有した上で役割を分担し、共同遊びやごっこ遊びを満足いくまで行う ○経験したことや感じた事、考えた事を言葉で伝える			

令和7年度 むつみ保育園全体的な計画

- 1、全体的な計画
- 2、保健計画
- 3、食育計画
- 4、交通安全計画
- 5、発達年齢別保育内容
- 6、安全計画

令和7年度 社会福祉法人 遠矢七五三会 むつみ保育園全体的な計画

保育理念	・子ども一人一人を大切に、保護者からも信頼される保育園を目指す									
保育目標	・よく遊び元気でたくましい子 ・心豊かに表現する子 ・自分で考え行動する子									
定員 受入児童	・60名 ・生後3か月以上									
クラス編成	・ひよこぐみ(0歳児) ・うさぎぐみ(1歳児) ・きりんぐみ(3歳児) ・ぞうぐみ(4歳児) ・らいおんぐみ(5歳児)									
主な園行事	・入園式/誕生会/内科健診/歯科健診/運動会/七夕/遠足/お店屋さんごっこ/七五三集会/発表会/クリスマス会/雪中ゲーム大会/節分集会 ひな祭り会/お別れ会/卒園式/修了式/避難訓練/大避難訓練/総合避難訓練/クラス別懇談会									
発達の特徴	6か月未満	6か月～12か月未満	1歳～2歳未満	2歳	3歳	4歳	5歳以上	幼児教育を行う施設として共有すべき事項		
	・身長、体重の著しい増加 ・首のすわり、活発な手足の動き ・寝返り、腹ばいなどの全身運動 ・視覚、聴覚などの著しい発達 ・特定の大人との情緒的な絆	・運動機能(座る)から「歩く」へ ・活発な探索活動 ・言葉(二語文)の習得 ・周囲の人への興味・関心 ・離乳の開始	・歩行による行動範囲の拡大 ・象徴機能の発達 ・言葉(二語文)の習得 ・周囲の人への興味・関心	・基本的な運動機能の発達 (歩く、跳ぶ、指先) ・言葉を使うことの喜び ・自己主張、自我の芽生え	・運動機能の高まり ・基本的な生活習慣の形成 ・言葉の発達、知的好奇心 ・友達との関わりの増加 ・ごっこ遊びと社会性の発達	・全身バランスの発達 ・身近な環境への関わりと遊びの体得 ・想像力の広がり ・想像の経験 ・自己主張と他者の受容	・基本的な生活習慣の確立 ・運動機能の高まり ・目的のある集団行動 ・思考力の芽生え ・仲間の中の人としての自覚	生涯にわたる生きる力の基礎を培うため、保育の目標を踏まえ「資質・能力」の3本の柱を一体的に育むよう努める。 「幼児期の終わりまでに育ってほしい」姿に合わせ、及び内容に基づき保育活動全体を通して「資質・能力」が育まれている子どもの小学校就学時の具体的な姿であり、保育士等が指導を行う際に考慮する。		
ねらいと内容	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	小学校との連携(小学校教育との接続)			
	生活リズムの形成や保健的対応	快適な生活や生理的欲求の充実	自我の育ちや健康状態の把握	基本的な生活習慣の確立や個々に応じた援助	生理的欲求の満足や身体の十分な活動	更なる健康増進や子どもの意欲の高まり	保育所保育が、小学校以降の生活や学習の基礎の育成につながることを配慮し、幼児期にふさわしい生活を通じて、創造的な思考や、主体的な生活態度などの基礎を培う。育まれた「資質・能力」が、小学校就学時の意見交換、研究の機会などを踏まえ、幼児期の終わりで育ってほしい姿を共有するなどして保育所保育と小学校教育との円滑な接続につとめる。子どもに関する情報共有に際して、就学に際し、市町村の支援の下に子どもの育ちを支えるための資料が保育所から小学校へ送付されるようにする。			
養護	生命の保持	生命の保持	自己主張への配慮や探索意欲の育成	生活の場への親しみと健康的な遊びの充実	生活の場の調整や集団での行動	自主性や自立心の育成や病予防、安全への関心	育みたい資質・能力は小学校以上の個別の「知識や技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」につながるものである。また、この資質・能力を実現するためにアクティブラーニングを用いる。			
	情緒の安定	情緒の安定	自己主張への配慮や探索意欲の育成	生活の場への親しみと健康的な遊びの充実	生活の場の調整や集団での行動	自主性や自立心の育成や病予防、安全への関心	育みたい資質・能力は小学校以上の個別の「知識や技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」につながるものである。また、この資質・能力を実現するためにアクティブラーニングを用いる。			
教育	身近な人と気持ちが通じ合う	人間関係	身近な人との関わりによる自立心の育成	友達との共感や関係構築の養成	信頼関係の深まりと道徳性の芽生え	愛情と信頼感の深まりや友達との関わりでの活動	育みたい資質・能力は小学校以上の個別の「知識や技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」につながるものである。また、この資質・能力を実現するためにアクティブラーニングを用いる。			
	受容的、応答的な関わりでの人との深い関わり	環境	探索活動を通して、感覚の働きを豊かに	自然現象への関心、環境を捉える感覚の育成	身近な環境への関心、探求心の芽生え	身近な事象への探求心の深まり	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目			
教育	身近なものに関わり感性が育つ	言葉	言葉のやりとりの楽しさや二語文の話し始め	語彙の増加や意思や欲求の満足	言葉の美しさ、楽しさへの気づき及び生活で必要な言葉の理解と使用	文字伝達の楽しさへの気づきや読書への関心	健康な心と体 自立心 協調性 道徳性・規範意識の芽生え 社会生活との関わり 思考力の芽生え 自然との関わり・生命尊重 数量や図形・認識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現			
	健康及び発達状況の定期的、継続的な把握	食育の推進(食育計画別紙)	環境衛生管理・安全対策	災害への備え(避難計画別紙)	子育て支援	職員の資質向上(研修計画)	自己評価	情報公開等		
健康及び発達状況の定期的、継続的な把握	5領域との相関性を構築する ・栄養バランスを考えた自園給食の提供 ・食育活動の実施 ・行事食の提供 ・食生活の改善 ・食生活の改善 ・食生活の改善	別に定める「安全対策マニュアル」に基づく ・施設内での設備、用具等の清掃及び、消毒等 ・安全管理及び自主点検 ・子ども及び職員の清潔保持 ・感染予防、実施及び保護者との情報共有	・避難訓練実施(毎月) ・消防署視察 ・消防訓練の実施 ・被災時における対応と備蓄 ・BCP(業務継続計画)	・法人施設による適切な施設運営管理 ・個人情報保護 ・苦情処理解決対応及び第三者委員 ・運営委員会の設置 ・ホームページの開設 ・障がい児保育等						

年間計画	年間保健計画		自分の健康に関心をもち、病気の予防等必要な活動を行う ○安心・安全な環境のもと、色々な遊びを通して身体作りをする ○出席停止、予防接種アレルギー等について保護者と連絡を密に取る
	I 期(4・5・6月)	II 期(7・8・9月)	III 期(10・11・12月)
目 標	○一人一人の子どもの健康状態を把握し、園生活に慣れ安定感を持って過ごせるようにする ○衛生的な生活習慣を身に付け生理的欲求を十分に満たせるようにする ○思いやりや助け合う心を身に付ける	○夏の暑さに留意して、快適に生活できるようにする ○水遊びを楽しむ、健康増進をはかれるようにする ○ケガ防止に努め、戸外での全身運動をし、適度な運動、休息をとり心身の疲れが癒されるようにする	○様々な運動遊びを通して、体力増進をはかる ○身体のおもしろみについて、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする ○風邪予防に努め健康増進に積極的にはかれるようにする
活動内容	○園の生活リズムを身に付ける ○歯磨き指導 ○内科健診を受ける ○ボール遊び ○戸外遊び、散歩 ○リズム遊び ○鬼ごっこ、ゲーム遊び ○サッカー ○運動遊び ○身体測定	○水遊び ○歯磨き指導 ○戸外遊び ○リズム遊び ○散歩 ○ボール遊び ○運動遊び ○サッカー ○鬼ごっこ、ゲーム遊び ○身体測定	○戸外遊び ○歯磨き指導 ○散歩 ○リズム遊び ○運動遊び ○鬼ごっこ、ゲーム遊び ○内科健診 ○サッカー ○歯科検診 ○身体測定
留意点	○健康調査票の内容を把握し、安全で健康的に過ごせるように配慮する ○保育室の室温や湿度 換気を気を付け配慮する ○むつみ保育園の安全対策マニュアルにそって保育室その他の整備、配慮をする ○子ども達と話し合いながら、遊びが広がるように必要に応じて援助する ○除去の必要がある子には、保護者からの聞き取りと医師による診断をもとに、除去の実施をする(ゴム手袋、アルコールなども含む)	○水遊びには気温や日差しに気を付け、年齢によって遊ぶ時間に配慮する ○運動器具に慣れる事から始め無理せず楽しんで取り組める環境作り心がける ○子ども達の状態を把握し、十分な配慮、休息や水分補給をとりながら遊ぶ ○汗をかいた後の処理を自分で行う ○子ども達と話し合いながら、遊びが広がるように必要に応じて援助する ○除去の必要がある子には、保護者からの聞き取りと医師による診断をもとに、除去の実施をする(ゴム手袋、アルコールなども含む)	○雪遊びに必要な防寒具を身に付け、寒さに対応できるようにする ○手洗いがい の大切さを知り、風邪や伝染病に対する予防策を自分達で行えるようにする ○乾燥しがちになるので室温や湿度に十分気を付け部屋の換気を定期的に行っていく ○乾燥している時は加湿器をつけたり、タオルを濡らして干すなど、湿度が保てるようにしていく ○流行ってきている伝染病の人数やクラス分布の統計をとる、それに合わせて消毒、清掃を行う ○定期的に遊具玩具の消毒を行う ○子ども達と話し合いながら、遊びが広がるように必要に応じて援助する
保護者への指導	○新入園児の健康調査票の記入 ○除去食の診断書提出 ○内科健診の結果報告 ○規則正しい生活習慣の大切さを知らせる ○薄着について ○流行ってきている伝染病の園の状況を知らせて、予防対策について知らせる	○夏の生活の仕方や感染症などの情報を知らせる ○運動遊びをするにあたって、健康状態の把握や生活習慣を見直してもらう ○流行ってきている伝染病の園の状況を知らせて、予防対策について知らせる	○流行ってきている伝染病の園の状況を知らせて、予防対策について知らせる ○内科健診の結果報告 ○歯科健診の報告
環境整備	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃、消毒 ○運動用具等の点検、消毒 ○玩具の定期的な消毒 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃、消毒 ○水遊びの玩具は水洗いの後日光に当てて乾燥させる ○運動用具等の点検、消毒 ○玩具の定期的な消毒 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃、消毒 ○玩具の定期的な消毒 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実にを行う

むつみ保育園 食育計画

令和7年度

発達過程	ねらい	内容	配慮事項
6か月未満	・お腹がすき、乳(ミルク)を飲みたい時飲みたいだけゆっくりと飲む	・よく遊び、よく眠る ・お腹がすいたら泣いて知らせる	・一人一人の子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する ・ミルクを与える時に優しく声をかけたり、微笑みかけたりして安心感を与える。 ・泣いて知らせている時はやさしい言葉で応えて信頼、愛情の基盤を育てるよう配慮する。
6か月～12か月未満	・お腹がすき、乳を飲み離乳食を喜んで食べ、心地良い生活を味わう ・色々な食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で食べようとする	・よく遊び、よく眠り、満足するまで乳を飲む ・お腹がすいたら泣くまたは喃語によって乳や食べ物を催促する ・色々な食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持つ色 ・ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	・お腹がすき、乳や食べ物を催促することが生じている事の欲求の表現につながる事を踏まえ、色々な食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むようにする ・子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さ等の調理形態に配慮する ・一人一人の子どもの発達・発育状態を適切に把握し、家庭との連携を取りながら、個人差に配慮する ・食料と人間関係が密接にある事を踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で、応答的な授乳及び食事での関わりが子どもと人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する ・離乳食を始める際には、食の安全(アレルギー)について保護者に十分理解してもらい、始める
1歳～2歳未満	・お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地良い生活を味わう ・いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して、自分で進んで食べようとする	・よく遊び、よく眠り、乳、食事で気持ちを満たす ・お腹がすいたら泣くまたは喃語によって乳や食べ物を催促する ・色々な食べ物に関心を持ち、自分で進んで食具や手づかみで食べようとする ・ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	・子どもが食べ物に興味を持って自ら意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する ・食事の時は一緒に噛む真似を見せたり、噛む事の大切さが身につくように配慮する。また、少しづつ色々な物に接する事ができるように配慮する ・清潔な習慣については子どもへの食べ物の意欲を損なわないよう、一人一人の状態に応じて関わる ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う
2歳	・色々な種類の食べ物や料理を味わう ・食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ ・保育士を仲立ちとして、友達と共に食事を進め一緒に食べる楽しさを味わう	・よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ・食べ物に関心を持ち、自分で進んでスプーンフォーク等を使って食べようとする ・保育士の手助けによって、うがい・手洗い、身の回りを清潔にし食生活に必要な活動を自分で行うようにして、子どもが自らしてみようと思う気持ちを大切にする ・子ども同士のいざこざも多くなるので保育士はお互いの気持ちを受容し、他の子どもとの関わり方を知らせていく ・友達や大人とテーブルを囲んで、食事を進める雰囲気づくりを配慮すること。また、楽しい食事の進め方を気づかせていく ・箸の持ち方は、食事に影響しない程度に声をかけ知らせていく ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う	・食べ物に興味を持ち自主的に食べようとする姿を尊重する。また色々な食べ物に接することができるようにする ・自然や身近な物への触れ合いにおいては、安全や衛生面に留意する。また保育士がまず親しみや愛情を持って関わるようにして、子どもが自らしてみようと思う気持ちを大切にする ・子ども同士のいざこざも多くなるので保育士はお互いの気持ちを受容し、他の子どもとの関わり方を知らせていく ・友達や大人とテーブルを囲んで、食事を進める雰囲気づくりを配慮すること。また、楽しい食事の進め方を気づかせていく ・箸の持ち方は、食事に影響しない程度に声をかけ知らせていく ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う
3歳	・できるだけ多くの種類の食べ物や料理を味わう ・自分で食事が出来る事、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう ・食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける ・大人と一緒に食事をし、会話を通して色々な事を学ぶ ・栽培、食事等を通して身近な存在に親しみを持つ	・身近な大人や友達と共に、食事をする喜びを味わう ・同じ料理を食べたり、わけあって食事をする事を喜ぶ ・身近な動植物に関心を持つ ・よく噛んでしっかりと飲み込むようにする ・様々な食べ物を進んで食べる ・食習慣の基本を身につける ・好きな物を美味しく食べる ・健康な生活リズムを身につける	・子どもが遊びや睡眠、排泄などの諸活動をバランスよく展開し、食欲を育むよう配慮する ・食前、食後の挨拶をし、食前には手洗いや消毒をするよう働きかける ・食具が上手に使え、よく噛んで食べるなどの基本的な食習慣を身につけるよう働きかける ・食べることの楽しさが実感できるように、楽しい雰囲気の中で食事をするよう伝えしていく ・野菜に触れ、食材への興味を引き出す ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う
4歳	・健康、安全などの食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ・様々な人々との会食を通して愛情や信頼感を持つ ・身近な存在に親しみをもち、全ての命を大切にすることが大切 ・調理に積極的に関わりをもつ ・栽培、食事等を通して、食材に興味を持つ	・慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する ・うがい・手洗いなど身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ・食生活に必要な事を友達と共に協力して進めて、関わりを深め思いやりやの気持ちを持つ ・食事の際には安全に気を付けて行動する ・食べ物を通して日本の伝統と食文化に関心を持つ ・自分で育てた野菜の色、形、手触りなど実感して、みんなで食べる喜びを感じる	・食習慣の形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わめながら、主体的な活動を展開する中で、身につくように配慮する ・身近な動植物に関わって共感し合い、命を育む自然に感謝の気持ちを持つよう、自ら関わろうとする意欲を大切にする ・調理する中で、様々な料理を通して素材に目を向け関心が養われるようにする ・大人との信頼関係に支えられて、自分自身の生活を確立していく事が基盤となる事を配慮する ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う
5歳	・色々な料理に出会い、発見を楽しんだり、考えたり、様々な料理があることを知る ・健康と食べ物の関係に気づく ・食習慣やマナーに気を付ける ・自然の恵みと働く事の大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう ・食べ物はそれぞれ食品によって、味や香りに特徴がある事を知る	・健康と食べ物の関係について関心を持つ ・肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができる事を知り、自然の恵みと感謝の気持ちを持つ ・調理している人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ・挨拶や姿勢など気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ・野菜の収穫の時期を知り自分で育てた野菜を食べる ・食材、色、形、香りなどに興味を持つ	・健康と食べ物の関係について関心をもたせ、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと子どもの発達に応じて内容に配慮する ・食品や料理を通して五感で発達するように創意工夫する ・食事マナーを守り、一定時間で食べ終わらせるよう声を掛け知らせていく ・命を育む自然に感謝の気持ちをもち、好き嫌いをくハバランスよく食べる大切さを知らせる。また、食事を作ってくれる人への感謝の気持ちを育てるよう働きかける ・子ども同士会話をしながら、楽しく食べられるよう保育士も一緒に楽しみ、雰囲気を作り上げていく ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う
6歳	・自分の身体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事を取ろうとする ・身近な自然に関わり、世話をすることで、料理との関係を考え、食材に対する感覚を豊かにする ・食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気の中で食事をし、食事に興味を持つ	・自分の健康に関心を持ち、必要な食品を選んで取ろうとする ・栽培を通して食材の成長を喜び、調理する事で生かされる事を学ぶ ・調理してくれる人への感謝の気持ちを持つ ・自然の変化によって収穫されるものの大きさや出来具合が違っていることを知る	・食べ物は過剰に食べたり、欠乏する事により、心身の健康を害する事に気づくように配慮する ・絵本や図鑑を通して、食生活の関心を深めていく ・給食メニューを発表する事で料理の名前を覚えたり、どんな食材でできているのかを知る ・除去が必要な子(アレルギー)には食材、食具など配慮を行う

※アレルギーの子に対しては安全対策マニュアルに明記

令和7年度 むつみ保育園 交通安全計画

ねらい	安全や危険の意味がわかり行動できる 安全に必要な基本的生活習慣や態度を身につける			
	I 期(4・5・6月)	II 期(7・8・9月)	III 期(10・11・12月)	IV 期(1・2・3月)
ねらい	散歩を通じて交通ルールを知る	様々な公共施設や交通機関に興味関心を持ち、交通機関の危険を知り気をつけていく	異年齢児の交流を通して、ルールやマナーを身につけていく	交通ルールや危険がわかり自ら気をつけていく
以上児	- 車道から離れて歩く - 信号のない交差点では止まり、右・左右を見て渡る	- 異年齢児と手をつないで散歩をする(小さい子を内側にする) - 信号のある大きい交差点を渡る - バスに乗って秋の遠足に行く - 社会見学に行きバスに乗る(年長児)	- 異年齢児と手をつないで散歩をする(小さい子を内側にする) - 信号のある大きい交差点を渡る	- 冬道の状態に合わせて歩くことができる - 防寒着を着て歩く
未満児	- 園周辺の道路を歩く - ベビーカーやおんぶでの散歩をする - 乗り物の絵本や紙芝居を見る	- 手をつないで歩く(保育者・お友達) - 交通安全に関する本・紙芝居を見る	- 以上児と手をつないで歩く - 保育者やお友達と手をつないで列になって歩く	防寒着、長靴などを履いて歩く
配慮	- 園周辺の道路を歩くときの保育士の配置を確認する - 気をつけること(右側、手をつなぐ位置、前を向いて歩く等)を確認 - 信号のない交差点での確認の仕方を保育士も一緒に声を出して行う - 大型バスに乗り、マナーやルール乗り方を知らせる - 遊びの中で左右の意識や交通ルールに興味を持てるように工夫する	- 道路の状況や状態がわかって自分で気をつけて歩き、小さい子と手をつないでの歩き方を知らせていく - 信号の見方、横断歩道の渡り方など、交通ルールを身につける - バスの乗り方やマナーを知り気をつけられるようにする - 公共の場でのマナーを知り、自ら気をつけられるように声をかけていく	- 道路の狭い所や、車の多い所など、自分で意識して歩けるように言葉かけをしていく - 遊びの中で左右の意識や交通ルールに興味を持てるように工夫する - 信号の見方、横断歩道の渡り方など、交通ルールを身につける	- 雪で道幅が狭くなっていることや滑りやすくなっている事など様々な道路の状況を自分で気づけるようにする - 滑りやすい所はどうかやって歩いたら良いか、転ばないか等みんなです話し合う機会をもつ

発達・年齢別 保育内容 【6か月未満】

6か月未満		○体重、身長 of 著しい増加 ○首のすわり、活発な手足の動き、寝返り、腹ばいなどの全身運動 ○視覚、聴覚などの著しい発達 ○特定の大人との間に情緒的な絆をつくる			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○家庭との連携を密にとりながら、子ども一人一人の健康状態を把握する ○体、衣服など常に清潔にする	○子どもの健康状態に合わせた環境を整える ○安全で清潔な玩具を用意する	○一人一人の生活リズムを考慮する ○保育者の愛情や豊かな関わりの中で、生理的欲求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする	○安心できる環境の中、一人一人がゆったりと過ごし、授乳や睡眠などの生活リズムが整うようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○人に対する信頼感が芽生え、安定感となっていくように、子どもが示す様々な行動や欲求に適切に応える	○泣く、笑うことで周囲とのやり取りをしながら、空腹時や快、不快などの表れに共感し、受け止め対応していく	○自分が受け入れられているという気持ちを育めるよう、生理的欲求や精神的欲求を満たす	○ミルクを与えるときやおむつ交換の時など、優しく声をかけたり微笑みかけたりして安心感を与える
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	伸び伸びと育つ	○身体機能や感覚が著しく発達し、外気に触れたり、保健的で安全な環境でのびのびと手足を動かしたりする心地よさを知る ○おむつを取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる ○愛情豊かな特定の大人と過ごすことを喜ぶ		○保育者の声や物音に反応し、見つめたり喃語を発したり体を動かしたりして快・不快を表そうとする ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動きで、感情を表現しようとする	○生理的欲求を受け止めてもらったり優しい言葉かけを感じたりして、人に対する信頼感が芽生える ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動きや喃語などで、自分の欲求を伝えようとする
	身近な人と気持ち合う	○自分に応答的に関わる特定の大人の声や表情に安心感を覚え、感覚が豊かになる ○周りの音や会話の声に関心を示し、その方向を見る ○あやされて笑いかえす ○自分の周辺の出来事に関心を示す		○身の回りにあるいろいろな遊具、玩具等に触れて遊ぶようになる ○不快を取り除いてくれる保育者の声を、心地よいと感じる ○何かに目を留めると、じっとそれを見てつかもうとする	○絵本等を通じて読んでもらったり、見せてもらう ○大人に言葉をかけてもらいながらミルクを飲む ○不快を取り除いてくれる保育者の声に応えて笑う ○自分が手に取ったものが動かすことで音がでることを知り楽しむ
	身近なものや育つ関わり	○植物や乗り物、動物を見て興味を持つ ○音に興味を持ち、音の出るものを喜ぶ ○柔らかいものや温かいものなどの感触を楽しむ		○様々な物に興味を示し見たり、触れたりして遊ぶようになる ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで意思や欲求を表す ○特定の大人の声のする方をじっと見る	○保育者の働きかけにより、目を向けたり、気に入ったものを手にして楽しむ ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで意思や欲求を表す ○快感、安心感や不快感、嫌悪感を感じることを表し、快感、安心感を感じるものを求めようとする

発達・年齢別 保育内容 【6か月～12か月未満】

6か月～ 12か月未満		○座る、はう、立つ、つたい歩き等の運動機能の発達 ○腕や手先を意図的に動かす ○探索活動の活発化 ○特定の大人との応答的な関わりによる情緒的絆が深まる ○あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる ○離乳食から幼児食へ徐々に移行		○人見知りをするようになる ○自我の芽生え ○大人から自分に向けられた気持ち、簡単な言葉がわかるようになる ○身近な大人との関係の中で自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとする	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○家庭との連絡を密に取りながら、子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対処する	○家庭と連携を密にとりながら一人一人の健康状態を把握し、発育、発達に応じて関わる	○保育者の愛情豊かな関わりの中で、生理的欲求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする	○子どもが自分でやりたいという気持ちを受け止め、援助しながら満足感が感じられるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○保護者と密に連携を取り、子どもの気持ちを共有し、必要な対応を継続する事で安定感を持って過ごせるようにする	○子どもが気持ちを表現する喃語や身振りなどに優しく繰り返し応答していく	○自分以外の他人という存在を認め、自分の行動や存在を肯定する気持ちが育まれるように信頼関係を築いていく	○心が癒されるように視線を合わせたり、優しく声をかけたりする。微笑みかけたり喃語や声、表情に応えたりする。
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	伸びやかな育つ	○運動機能が発達し、自由に手足を使い周囲の人や物に興味を持ち探索活動を楽しむ ○喃語や指さしを楽しむ ○あやしてもらおうと喜ぶ等、生活や遊びの中、身近な人に興味を持つ ○身近な大人との関わりを楽しむ	○自由に移動できる喜びと身近な環境への働きかけで好奇心がより旺盛になる。 ○短い言葉の中にこもった思いを保育者や大人にくみ取ってもらうことで思いを伝える意欲が高まる ○受動的に関わる大人とのやり取りを楽しむ	○応答的な環境の中で特定のひととの絆を深める ○同じものを見つめて共有して、大人とのやり取りを心地よく感じ、様々な経験を繰り返し試す ○離乳食から幼児食へ移行する ○身振りを真似するなど自分から関わろうとする	
	身近な人と気持ち通じ合う	○周囲の人や物に興味を持つ ○異年齢児との触れ合いを持つようになる ○反復喃語が始まる ○情緒的、動作認識が発達する ○身振りや喃語で保育者とのやり取りを楽しむ	○気に入った遊具を手にして遊んだり、色々な素材の遊具で遊んだりする ○整えられた環境のもとで安全に活動できるようにする ○安心ができる大人がゆっくり優しく語りかけることで、口元の動きを模倣し声をだし言葉を真似ようとする	○絵本等を通じて読んでもらったり、見せてもらう ○基本的な生活習慣を繰り返し体験していく ○正しい調音の模倣はできないが、模倣を繰り返し楽しむ	
	身近な感性も育つ関わり	○戸外に出て植物や乗り物、動物を見て興味を持つ ○興味を持った素材に触れて感触を楽しむ ○情緒的なつながりの中であやしてもらおう事を心地よく感じる ○大人に歌をうたってもらおう事を楽しく感じる	○身近な大人に対し、意思や要求を表情や身振りで伝えようとする ○大人の歌に合わせて体を揺らしたり、リズムをとったりする	○受け止めてもらい、伝わる喜びを味わいやり取りを楽しむ ○自分で好きな様に体を動かしたり模倣を楽しむ	

発達・年齢別 保育内容 【1歳～2歳未満】

1歳～ 2歳未満		○自発的に身近な人や回りの物に働きかける ○自分の意思を大人に伝えようとする意欲が高まる ○大人の言うことがわかる ○指さし、身振り、片言等を盛んに使う ○自分や他人の所有物の区別がつく		○歩く、押す、つまむ、めくる等様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得 ○物のやり取りや取り合いが見られる	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の心身の発達状況を的確に把握する ○室内外の温度や湿度に留意し衣服の調節をする	○歩行確立により行動範囲が広がり、歩き始めて歩行が安定しないため、事故防止に努める	○子ども一人一人の心身の発達状況を把握する ○子ども一人一人の癖や特徴を把握する	○子どもが自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○子ども達が安心して生活できるように信頼関係を築き、探索活動を安全な環境の中、十分楽しめるような工夫をする	○子どもの言葉や指すものを理解し、興味や気持ちに寄り添いながら言葉にして返していく ○自己主張を受け止めながらぶつかり合いの仲立ちとなり、適切に自ら表現しようとする心を育てていく	○自分でやろうとする意欲を受け止め認めていく ○友達や周囲への興味や関心が高まり、子ども同士関わっていく	○心地よい環境の中、保育士とスキンシップをはかり、心の安定が得られるようにする ○自我の芽生えを喜び受け止めてもらう事により、気持ちを立て直していく心が育まれるようにしていく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
教育	健康	○歩行が確立し、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけながら好きな遊びに取り組む ○象徴機能が発達し、玩具を仲立ちして見立て遊びを楽しむ		○友達の仕草や行動を真似たり、やり取りが広がる ○行動範囲が広がり身近な環境への働きかけで好奇心旺盛になる ○身の回りの事を自分でしようとする	
	人間関係	○友達や周囲の人への興味や関心を持ち、安心感を持って、一緒に過ごす事の喜びを味わう ○依存と自立を繰り返しながら、保育士に受け止めてもらい安定した気持ちで過ごす		○身近な大人や友達に関心を持ち、親しみを感じて関わろうとする ○身近な大人に対し、意思や要求を全身で伝えようとする	
	環境	○戸外遊びを通して草花、昆虫を見ることにより興味を持ち情緒を培う ○玩具を使った遊びの中で友達と関わりを持って遊ぶ		○異年齢児との触れ合いの中で玩具、玩具の遊びを通し、見たり触れたりして自分もやってみようとする	
	言葉	○言葉を使い始める ○指さし、身振りなどで自分の気持ちを表す ○二語文を話す		○経験の中で得た簡単な言葉を使って自分の気持ちを表そうとする ○二語文を話し、意思を伝えようとする	
	表現	○美しいものを好み、楽しむ ○好きなものが出てくる ○イメージを膨らませてその世界を自分で楽しむ		○指さしや身振り、片言等で親しい大人に対し自発的に意思を伝えようとする ○興味のある物を模倣をしようとする	
				3) 態度	
				○大人の言う事がわかり、自分で訴えるようになる ○信頼できる大人の存在により自信を持って物事に取り組むようになる	
				○様々な遊びを通して同じ事を楽しみ、子ども同士の関わりを持つ ○気持ちを切り替えながら、安心して関わろうとする	
				○自分、友達(他人)の持ち物がわかり名前が言える ○玩具などの色、形、数などの言葉がけをして繰り返し行い、理解しようとする	
				○保育士等の応答的な関わりによって、片言、一語文、二語文を獲得する	
				○イメージを膨らませて、玩具や抽象的な実物に見立てる事ができる ○好きな絵本や歌がある	

発達・年齢別 保育内容 【2歳】

2歳		○歩く、走る、跳ぶなどの基本的な運動機能、指先の機能の発達 ○身の回りのことを自分でしようとする ○友達を気にしたり、関わり、遊ぶことができる ○自分の意思や欲求を言葉で表出できる ○探索活動の活発化、自我の育ち、強い自己主張 ○物事の間の共通性を見出す ○簡単なごっこ遊びを楽しむ			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態を把握し、保健的で安全な環境をつくり、生活習慣の自立を援助する	○運動機能の発達に伴い子どもの行動範囲や危険等十分に予測し、環境の安全管理に配慮する	○家庭との連携を十分に行い一人一人に合わせて適切な生活リズムを整えていく	○楽しい雰囲気の中で食べる事への興味、食物の味を知らせ、食べる楽しさを味わえるようにしていく
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○運動、指先機能が発達し、行動が十分楽しめるように一人一人の発達過程を把握し、要求を満たしながら安全な環境づくりをする	○自己主張が強くなり、ぶつかり合いが多くなる中、保育士が仲立ちとなり安心できる環境を整え適切に自己表現を育んでいく	○子どもの成長、動きを把握し、気持ちの受容を共感しながら信頼関係を築き、自信につなげて意欲を受け止めていく	○自我の芽生え、自己主張等を受け止め喜怒哀楽を豊かにし、気持ちを抑えたり、立て直しができる心を育んでいく
保育のねらい		1) 心情	2) 意欲	3) 態度	
教育	健康	○運動、指先機能の発達に伴い保育士、友達との関係を広げ十分に体を使って遊ぶ ○ごっこ遊び、リズム遊び等を楽しむ	○食事、衣服の着脱、排泄等の生活に必要な活動を自分でしようとする ○生活、遊びの中で言葉が増え、やり取りを楽しみ、使い方を知っていく	○自我が育ち、自己主張や葛藤を経験する ○保育士との信頼関係を築き自信と安心を持って取り組む ○様々な遊びの経験の中で、簡単な良し悪しを学び、危険等の意識を持つていく	
	人間関係	○身の回りの事を自分でする事で出来たことの喜びを味わう ○保育士、友達との信頼関係を持ち、安心感を持って生活する事の喜びを味わう	○自分の意見や意欲を認めてもらう中で自己アピールしたり自信を持ち活動しようとする	○大人に見守られながら自分でできる事は自分でしようとする ○信頼関係を持ち安心して自分の意見を表そうとする	
	環境	○散歩や遊びを通じてその季節に親しみ、変化に触れ探索活動が盛んになり関心を持つようとする	○自分の身の回りの事はできるだけ自分でしようとする ○食器、箸の持ち方、姿勢の習得、排泄の自立など大きな成長が見られる	○保育士や友達と一緒に様々な遊びを楽しみ、好きな玩具や遊具に興味を持つ ○「自分で」との主張が見られる ○生活、遊びの中で順番に並ぶ事や物の貸し借りを覚える	
	言葉	○自分の意見や要求を言葉で表現したやり取りをすることを楽しむ ○言葉や話に興味を持ち、親しみを持って繰り返し使おうとする	○保育士等を仲立ちとして、遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ ○保育士、友達の言葉に興味関心を持つ	○保育士、友達との関わり遊びの中で言葉の数が増える ○絵本に親しみ、興味を持ち言葉を模倣し繰り返す事を楽しむ	
	表現	○自我が芽生え始め好き嫌いを主張しようとする ○自然に十分に触れ、光、水、砂、土等の感触に慣れ親しみを持つ ○紙、粘土、製作道具に触れ興味を持って楽しむ	○言葉が増え要求、主張を言葉で表現しようとする ○保育士、友達と自然に触れ様々な感触に気づいたりする ○興味のある物を模倣し自由に表現する	○大人と一緒にごっこ遊びを楽しむ中、イメージを膨らませ象徴機能の発達が見られる ○保育士と一緒に歌ったり手遊びをしたりリズムに合わせて体を動かして遊ぶ	

発達・年齢別 保育内容 【3歳】

3歳		○基本的な運動機能の伸び ○食事、排泄、衣類の着脱などがほぼ確立 ○話し言葉の基礎が出来上がる ○知的興味や関心の高まり		○自我がよりはっきりすると共に友達との関わりが深まるが平行遊びが主である ○遊びに経験を取り入れるなど内容の発展性が見られる ○予想や意図、期待を持って行動できる			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする		
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態や発達を把握し、快適に過ごせるようにする	○施設内外の環境を整え安全に十分に配慮し、健康や安全の大切さに触れる ○保護者との連携を図り疾病予防に努める	○子どもの発達に応じ適切な援助や関わりを通じ、生理的欲求を満たしながら生活リズムを作っていく	○子どもの発達を見通し適度な運動、休息がとれるようにし、基本的生活習慣が形成されるようにする		
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする		
養護	情緒	○子どもの主体性を育みながら様々な要求を受け止め安心感へとつなげる	○一人一人の欲求を受け止め、友達と上手に関わりが持てる言葉かけや見守りで援助する	○なぜ、どうしての興味への広がりには適切に応え、応答的な触れ合いを持つ	○お手伝い等の活動でねぎらいや感謝の言葉をかけ、心地よさや安心感を知らせ、受け止める		
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲		3) 態度	
教育	健康	○運動機能が発達し、自由に伸び伸び遊びを楽しむ ○戸外遊びで十分に体を動かしたり、様々な遊具、用具に関わり遊ぶ楽しさを味わう		○基本的生活習慣を進んで行い生活に見通しを持つ ○興味関心が広がり遊具や用具に工夫を加え遊ぶとする		○身の回りの事が自分でできるようになってく中で、自分の気持ちを大切にしながら援助し、自立を促す ○約束、ルールを守る大切さに気づき、危険に対し少しずつ意識を高める	
	人間関係	○身近な人との関わりを喜び、共感しながら楽しさを味わう		○様々な要求を受け止めてもらう事で、安心感を覚え相手の気持ちにも気付いていく		○友達との関わりを深め共感しながら遊びを楽しむ ○共同の遊具を大切に扱う	
	環境	○室内外での遊びを通じ、経験した事を遊びにつなげ、豊かな感性や興味が広がる		○基本的生活習慣が身につく生活の仕方を知る ○友達との関わりが多くなることで相互に働きかけ関わり方を知らせていく		○基本的生活習慣が身につく ○友達との関わりで仲立ち、見守りの援助をしながら相手の気持ちにも触れていく	
	言葉	○言葉の発達が著しく、思った事感じたことを言葉に表し、言葉のやり取りを楽しむ		○自然や生活の中で興味を持った事や不思議に思う事等を言葉で伝えようとする		○質問ややり取りを通じ思った事を言葉で表現できるよう聞く環境を整える ○表現した気持ちを十分に受け止める	
	表現	○様々な物を見たり触れたり、面白さや色、形に気づき感性を豊かに持つ ○遊び歌を繰り返し楽しむ		○身近な人の行動や興味を持った物を模倣し楽しむ ○一緒に絵本、絵画、歌に親しむ		○生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ ○絵本を読んだり絵を描くことを一緒に楽しむ ○音楽に親しみ歌う事の楽しさを味わう	

発達・年齢別 保育内容 【4歳】

4歳		○全身のバランスを取る能力が発達し、動きが巧みになる ○身近な環境に積極的に関わり、物の特性を知る ○想像力が豊かになり、目的を持って行動する ○仲間との強いつながりから、喧嘩が増す ○決まりの大切さに気付き、守ろうとする ○身近な人の気持ちを察したり、自分の気持ちを抑えるなどの我慢が出来る			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態や発達を把握し適切に対応し自ら気をつけるようにする	○子どもの健康や安全の大切さを知らせ安全な環境づくりに努める	○子どもが食事・排泄・睡眠・休息等に生理的欲求を満たせるようにし、安心して自分の気持ちを表せるように応答的な関わりを心がける	○子どもの発達を見通し、全身を使う運動を適度に取り入れ、それぞれに合った活動が出来るようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○日々の生活や遊びの中に安心感を持ち、伸び伸びと友達と関わっていきけるように援助する	○友達同士の遊びを豊かにし、友達との関係の中で徐々に自分を発揮できるように援助する	○お互いの存在や良さを認め合えるように集団の中で一人一人の良さをいかしていく	○生活の中で与えられた役割と責任を持って果たすことで達成感を味わえるよう言葉がけを工夫する
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	健康	○全身を使い自然や様々な遊具や物と関わって運動量の多い遊びに挑戦する ○活動と休息のバランスのとれた生活リズムに心地よさを感じる		○五感で感じた事を発展させ、想像しながら遊ぼうとする ○目的を持ち予測して行動しようとする ○十分に遊んだ後は自ら水分や休息を取ろうとする	○自他を区別し保育士に共感してもらったり友達と競争したりしながら遊ぶ ○自分の体に興味関心を持ち健康であるために必要な食事や遊び、休息の大切さを知る ○自分の体の状態を意識し、異常を感じた時にはそれを保育士に伝える
	人間関係	○仲間という事の喜びや楽しさをより感じながら仲間とのつながりを深める ○友達と一緒に活動する楽しさを知る		○友達の良さに気づき一緒に活動する事をしようとする ○関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の気持ちにも気づき優しさや思いやりに触れる	○自己を十分に発揮したり、他者と協調して生活したりする事を楽しむ ○自分から挨拶する事でコミュニケーション能力の基礎を身につける
	環境	○自然等の身近な環境に積極的に関わり様々な物の特性を知り、関わり方や遊び方を体験していく		○身近な環境に自ら関わろうとする ○イメージや意思、目的を持って作ったり描いたりする ○音楽に合わせて歌ったり踊ることを楽しむ	○決まりごとの大切さに気づき守ろうとする ○身近な人の気持ちを察し少しずつ感情のコントロールをする
	言葉	○経験したことや思った事を話し、言葉で伝える楽しさを味わう ○自分の名前や文字に興味を持つ		○友達同士、言葉で伝え合いながら遊びの状況を理解しようとする ○興味を持った文字を探し読んでみようとする	○会話を通し友達との楽しさを感じるようになり、友達とのつながりを深める ○絵本等を通して興味を広げ楽しむ
	表現	○生活の中で様々な音、形、手触り、動き、味、香り等に気づいたりして楽しむ ○感動を伝え合う楽しさを味わう ○色々な素材、用具、表現法に関心を持つ		○友達とイメージを言葉にして共有し、一緒に表現しようとする事を楽しむ ○イメージや意思、目的を持って作ったり描いたりする ○音楽に合わせて歌ったり踊ることを楽しむ	○色々な素材や道具を使い、より広いイメージの世界を絵や製作物に表そうとする ○きれいなもの、美しいものを見たり集めたりする

発達・年齢別 保育内容 【5歳】

5歳		○基本的な生活習慣が身に付く ○運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをしたり活発に遊ぶ ○言葉による共通のイメージを持つ ○目的に向かって集団で行動する ○自分たちで決まりをつくる ○自分なりに考えて判断したり、相手に伝える力が身に付く ○社会生活に必要な基本的な力が身につく ○仲間の一人としての自覚が生まれる			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合には自ら伝えられるようにする	○子どもの疾病や事故防止に関する意識を持ち、安全な環境づくりと事故防止に努める	○生理的欲求が満たされる事の大切さを知らせる	○運動と休息の適切なバランスや調和を図りながら、基本的な生活習慣が身につくようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○一人一人の発達に合った遊びや生活の環境を構成し、時には励まし言葉をかけながら子どもが様々な活動に安定的に関われるようにする	○集団生活の中で安心して言葉による伝達や対話ができるよう、日ごろから保育士や友達との信頼関係を築ける関わりをしていく	○他者から自分の存在を認めてもらう事の喜びを感じ自己肯定感を育てていくように関わる	○誰かの為に働くことは自分の喜びにつながる事を一緒に体験し、その喜びを共感していく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	健康	○大人と同様の複雑な運動や用具を使った作業ができるようになる ○保健的で安全な場所で思い切り遊べる心地良さを知る		○五感で感じた事を発展させ、想像しながら遊ぼうとする ○目的を持ち予測して行動しようとする ○十分遊んだ後は自ら水分や休息を取ろうとする	○遊びを発展させるために自分達で考えて判断し、危険な場所や遊びを知り調整しようとする態度が生まれる
	人間関係	○予想、見通しを立てて自分で行動できる事に自信を持つ ○生活や遊びの中で決まりがあることに気づき、考えながら行動する		○友達との関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたり優しさや思いやりを持つ ○友達との共通の目的を持ち協力してやり遂げようとする	○友達を許し、違う思いを認め、友達の良いところに気づき一緒に活動する楽しさを味わう ○物事の良し悪しに気づいていく
	環境	○園外での活動で違う環境に関心を持ち、その中で遊びや楽しさを見つける		○遊びの中で仲間意識を大切にし、色々な知識や経験を生かして工夫していけるようになる ○行事を楽しみながら待ち保育士に教えられた事を覚えていく	○絵本、紙芝居等を通じて言葉、文字、数、量、図形に興味を持って読んだり書く事を覚える ○色々な経験を通じて自立心が出てくる
	言葉	○自分で考えた事を言葉で表現をしたり、友達の意見を聞いたり気持ちを理解できたりする喜びを感じる ○自分の思いや要求、主張を言葉で伝える		○友達の主張に耳を傾けながら一つの目的に向かって一緒に行動しようとする ○自分の名前や五十音がわかり文字に表そうとする	○絵本や物語を通じ言葉を交わしたり友達や保育士とイメージを広げ楽しむ ○目的に向かってみんなで行動する
	表現	○色々な素材や用具を使つての表現方法に関心を持つ ○友達や保育士に自分で作った物を見せたり友達と一緒に表現する事を楽しむ		○思っている事を言葉や動きで表現し、演じて遊んだり描いたり作ったりする ○生活の中で色々な事に触れ感情イメージを豊かにする	○描いたり作ったりしたものを見せあったり飾ったりする ○友達と共通の遊びを通しイメージを広げ遊びを発展させる

発達・年齢別 保育内容 【6歳】

6歳		○全身運動が滑らかで巧みになる ○自信や、予想や見通しを立てる力が育ち、意欲が旺盛になる ○自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心が高まる ○役割分担が生まれるような共同遊びやごっこ遊びに満足するまで取り組む ○様々な経験を通して自立心が一層高まる			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の発達状態を把握し、子どもが自ら体の異常を訴えられるようにする	○家庭との連携を密にし、子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め安心安全な保育環境をつくる	○生理的欲求が満たされ、その大切さを知り自主的に生活が出来るようにする	○子どもが発達に応じて適切な運動を楽しめるようにする ○子どもが休息の大切さを知り自らとれるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れが癒されるようにする
養護	情緒	○一人一人の子どもが心身の状態を把握しその発達を援助する	○友達の主張に耳を傾け共感したり積極的に意見を言い合ったりできるような関係作りをしていく	○仲間との葛藤を体験しながら互いを認め合い自らも肯定する気持ちが促されるように、一人一人の子どもたちの育ちを認めていく	○達成感や自信を持つことで充実感を味わえるように保育士もその成長を認め一緒に喜び、子どもの心の安定を得られるようにしていく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	健康	○全身運動が滑らかで巧みになると同時に手の動きが細やかになり自信を持って活動できる喜びを味わう ○元気に活動するためには生活リズムや食事、排泄、病気の予防などが大切な事に気づく		○自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んでしようとする ○災害や危険への認識がより一層高まる	○健康に必要な日々の生活習慣を自ら進んで確立していく ○危ない遊びや非常時の行動がわかり保育士の指示を理解し危険を回避する行動がとれる
	人間関係	○予想や見通しを立てて自分の力で行動できる事に自信を持つ ○生活や遊びの中で決まりを守り、考えながら行動する		○仲間の意思や仲間内で通用する約束事を大切にし、守ろうとする ○友達との共通の目的を持ち協力して物事をやり遂げようとする	○協調、協力して物事をやり遂げようとする ○物事の良し悪しに気づいて、考えて行動する
	環境	○自信や予想見通しを立てる力が育ち、心身共に力があふれ意欲が旺盛になる		○遊びの中で仲間の意思を大切にしていき、様々な知識や経験を生かし創意工夫ができるようになる	○思考力や認識が高まり、自然事象や社会事象への興味や関心が高まり、それに伴い様々な経験を通して自立心が高まる
	言葉	○自分の考えた事を言葉で表現する事で、友達の意思や仲間内の約束事を大事に出来るようになる ○生活の中や絵本にある言葉の楽しさに気づき、文字で表す楽しさを味わう		○友達の主張に耳を傾けたり、自分の主張も伝え、一つの目的に向かって行動する ○自分の名前や五十音がわかり、文字に表そうとする	○意見を調整しながら友達との中で合意を得て、遊びを広げる ○文字に親しみ活動の中で伝え合う喜びを感じる
	表現	○友達や大人に自分の表現した物を見せたり聞かせたりする事を楽しみ意見を求める ○友達と一緒に表現する事を楽しむ ○言葉への興味、関心がより高まる		○友達の意思を大切にしようとする ○イメージを動きや言葉等で表現したり演じて遊んだり楽しさを味わう	○友達とイメージを共有した上で役割を分担し、共同遊びやごっこ遊びを満足いくまでやる ○経験した事や感じた事、考えた事を言葉で伝える

令和7年度 社会福祉法人 遠矢七五三会 むつみ保育園 安全計画

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
安全への配慮	乳児	○一人ひとりの生活リズムを知り体や発達の状態、ミルクの飲み方好み癖などを把握し、安心して過ごせる環境を整える ○発達に応じた探索活動が十分に出来る安全な環境を整える ○玩具の大きさや素材などに十分に注意する ○SIDSの発生の予防のため睡眠状態を観察する（特にあずけ始めは注意が必要） ○睡眠時は嘔吐物や寝具などで口や鼻がふさがらないよう見守る ○抱っこやおんぶをしている時は周囲に十分気を付ける ○保護者と十分コミュニケーションを密に取り、子どもの状態や生活の様子等情報を保育園での生活に活かしていく													
	1才以上 3歳 未満児	○SIDS発生の予防のため睡眠状態を観察する（特にあずけ始めは注意が必要） ○一人ひとりの発達の状態に応じた玩具や遊具を意用する ○水分や休息を十分に取り遊びや生活の中で、静と動のバランスをとっていく ○安全に配慮しながら職員を配置し、戸外遊び、水遊びを行う			○安全な環境を整え、発達に応じた遊びや活動が出来るよう整える ○戸外での活動（散歩・園外保育等）は年齢や発達に応じた計画を立てて、安全に楽しめるよう十分配慮する ○遊びの最中でも人数確認を保育士が行い常に人数把握をする ○暖房器具に十分注意しやけどなどの事故防止に努める			○感染予防のため、手洗いうがいの大切さを知らせ、一緒に正しい仕方を知らせていく ○雪遊びに安全に取り組めるように防寒着や防寒靴が脱げない様、快適に遊べるよう配慮する							
	安全指導	3才以上児	○新しい環境、生活に必要な道具や場所の安全な使い方、約束を知る（室内、ホール、トイレ等） ○園外での遊び方、固定遊具の使い方、約束を知る ○散歩など交通ルールを知る			○暑い日の過ごし方を知る（熱中症予防、水分補給、汗の始末、休息等） ○戸外遊びの中、自分の状態がわかり、必要な休息の仕方を知る。 ○水遊びの約束を知り守って遊ぶ			○気温や活動に応じた服装がわかり、戸外で体を動かし楽しく遊ぶ ○暖房器具の場所や危険性について知り安全に関する約束を守る			○雪の日の安全な遊び方、身丈度等の仕方がわかり自分で行う ○防寒着や防寒靴で雪道や凍った路面を歩く経験をしながらか危険を知る ○感染症の予防のため手洗いうがいがいがどうして必要なのかを知り、正しいやり方を知り自らおこなう			
全体的な配慮事項		○毎日の出席、欠席、遅刻、早退児を把握し、職員間で共通認識をする ○欠席が続く時、連絡がつかない時は担当課に報告し情報を共有し、安否確認を行う ○室内外の活動は常に子どもたちの行動の把握に努め、職員間の役割分担を明確にし声をかけ合って周りの状況、保育士の動きを把握できるように努める。○食事の際は注意事項（別紙）に添って一人ひとりの喫食状況や健康状態に十分気を付け、様子を観察する ○アレルギー児童の把握、本児の健康状態、食品除去の把握など職員間で情報、対応の共有の徹底 ○水遊びは監視体制を整え、職員の配置など役割分担し、共通理解のもと遊びをおこなう ○散歩に出る時は事前に目的地や経路を確認し、お散歩カーやベビーカーなどの点検をし安全を確認し使用する ○園外に出る時は人数確認をこまめにし確認する													
安全管理（施設・設備・園内外環境）		○安全チェックリストによる毎月点検を行う。 ○固定遊具の点検 ○砂場の衛生管理、消毒を行う ○消防設備の点検（年2回）		○ボイラー点検										○積雪時の避難口、経路の安全確保 ○落雪、つららなどの確認処理 ○水道凍結防止	
安全に関する組織活動	避難訓練	○地震 保育士の指示を聞き避難の仕方を知る ○防火映画 防火に対する意識を持つ	○地震 ホールでの避難の仕方をしる	○火災 ボイラー室から出火想定避難の仕方をしる	○総合訓練 職員の通報、放送、消火の訓練 児童の避難の訓練を一緒に行う	○地震 園庭で遊んでいる時の避難の仕方をしる	○地震大津波 園避難所までの移動を経験する	○総合訓練 職員の通報、放送、消火の訓練 児童の避難の訓練を一緒に行う	○地震 ○不審者対応 落ち着いて行動する	○竜巻 園竜巻警報が発令された場合の対応の仕方をしる	○地震 雪遊びをしている中での避難の仕方をしる	○地震 ○不審者対応 玄関から侵入してこようとして いる時の対応	○地震 ホールでの避難の仕方をしる		
	保護者・地域との連携	○緊急メールの手続きを行ってもらう ○新入園の保護者には保育園の決まりや災害時の約束などを知らせ、有事の際に保護者がどうしたらよいか、園児の安全の確保の状態などを知らせ、慌てることの無いよう行動がとれるよう理解してもらう													
	研修等	○ヒヤリハットの共有、分析 ○アレルギー児童の確認対応共有 ○安全マニュアルの確認 ○ケースの報告共有													
研修等		○水遊び対応についての確認理解 ○感染症対応、消毒、処理の仕方 ○救命救急													

令和7年度

さくら保育園 全体的な計画

1. 全体的な計画
2. 食育計画
3. 交通安全計画
4. 保健計画
5. 安全計画
6. 発達年齢別保育内容

さくら保育園 食育計画

令和7年度

発達過程	ねらい	内容	配慮事項
6か月未満	・お腹がすき、ミルクを飲みたい時飲みたいだけゆっくりと飲む	・よく遊び、よく眠る ・お腹がすいたら泣いて知らせる	・一人一人の子どもの安定した生活リズムを大切にしながら、心と体の発達を促すように配慮する ・ミルクを与える時に優しく声をかけたり、微笑みかけたりして安心感を与える。 ・泣いて知らせる時はやさしい言葉で応えて信頼、愛情の基盤を育てるよう配慮する。
6か月～1歳未満	・お腹がすき、ミルクを飲み離乳食を喜んで食べ、心地良い生活をする ・色々な食べ物を見る、触る、味わう経験を通して自分で食べようとする	・よく遊び、よく眠り、満足するまでミルクを飲む ・お腹がすいたら泣くまたは喃語によってミルクや食べ物を催促する ・色々な食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする ・ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	・お腹がすき、ミルクや食べ物を催促することが生じている事の欲求の表現につながる事を踏まえ、色々な食べ物に接する機会を持ち、食欲を育むようにする ・子どもの咀嚼や嚥下機能の発達に応じて、食品の種類、量、大きさ、固さ等の調理形態に配慮する ・一人一人の子どもの発達、発達状態を適切に把握し、家庭との連携を取りながら、個人差に配慮する ・食欲と人間関係が密接にある事を踏まえ、愛情豊かな特定の大人との継続的で、応答的な授乳及び食事での関わりが子どもの人間への信頼、愛情の基盤となるよう配慮する
1歳～2歳未満	・お腹がすき、食事を喜んで食べ、心地良く生活をする ・いろいろな食べ物を見る、触る、噛んで味わう経験を通して、自分で進んで食べようとする	・よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ・色々な食べ物に関心を持ち、自分で進んで食べ物を持って食べようとする ・ゆったりとした雰囲気の中で、食べさせてくれる人に関心を持つ	・子どもが食べ物に興味を持って自ら意欲的に食べようとする姿を受け止め、自立心の芽生えを尊重する ・食事の時は一緒に噛む真似を見せたり、噛む事の大切さが身につくように配慮する。また、少しずつ色々な物に接する事ができるよう配慮する ・清潔の習慣については子どもの食べる意欲を損なわないよう、一人一人の状態に応じて関わる
2才	・色々な種類の食べ物や料理を味わう ・食生活に必要な基本的な習慣や態度に関心を持つ ・保育者を仲立ちとして、友達と共に食事を進め一緒に食べる楽しさを味わう	・よく遊び、よく眠り、食事を楽しむ ・食べ物に関心を持ち、自分で進んでスプーンフォーク等を使って食べようとする ・保育者の手助けによって、うがい、手洗い、身の回りを清潔にし食生活に必要な活動をする ・楽しい雰囲気の中で、一緒に食べる人、調理をする人に関心を持つ ・色々な食べ物を進んで食べる ・保育者を仲立ちとして、友達と共に食事を進める事の喜びを味わう	・食べ物に興味を持ち自主的に食べようとする姿を尊重する。また色々な食べ物に接することができるようにする ・友達や大人とテーブルを囲んで、食事を進める雰囲気づくりに配慮すること。また、楽しい食事の進め方を気づかせていく ・食具は発達にあわせた声掛けを行っていく
3才	・できるだけ多くの種類の食べ物や料理を味わう ・自分で食事が出来る事、身近な人と一緒に食べる楽しさを味わう ・食事に必要な基本的な習慣や態度を身につける ・大人と一緒に食事をし、会話を通して色々な事を学ぶ	・身近な大人や友達と共に、食事をする喜びを味わう ・同じ料理を食べたり、分けあって食事をする事を喜ぶ ・身近な動植物に関心を持つ ・よく噛んでしっかりと飲み込むようにする ・様々な食材を食べてみる ・食習慣の基本を身につける ・挨拶や姿勢など気持ちよく食事をするためのマナーを身につける ・健康な生活リズムを身につける ・著に興味を持ち親しんで使ってみようとする	・子どもが遊びや睡眠、排泄などの諸活動をバランスよく展開し、食欲を育むよう配慮する ・食前、食後の挨拶をし、食前には手を洗い消毒をする ・食具が上手に使える、よく噛んで食べるなどの基本的な食習慣を身につけるよう働きかける ・箸の持ち方は、食事に影響しない程度に声をかけ知らせていく
4才	・健康、安全などの食生活に必要な基本的な習慣や態度を身につける ・様々な人々との会食を通して愛情や信頼感を持つ ・食習慣やマナーを知り気をつける	・慣れない食べ物や嫌いな食べ物にも挑戦する ・うがい、手洗いは安全に身の回りを清潔にし、食生活に必要な活動を自分でする ・食事の際には安全に気を付けて行動する ・自分で育てた野菜の色、形、手触りなどを実感して、みんなで食べる喜びを感じる	・食習慣の形成に当たっては、子どもの自立心を育て、子どもが他の子どもと関わりながら、主体的な活動を展開する中で身につくように配慮する ・様々な料理を通して素材に目を向け関心が養われるようにする ・大人との信頼関係に支えられて、自分自身の生活を確立していく事が基盤となる事を配慮する
5才	・伝統的な食品加工を知る ・健康と食べ物の関係に気づく ・食習慣やマナーに気を付ける ・自然の恵みと働く事の大切さを知り、感謝の気持ちを持って食事を味わう ・加工食品の原材料に興味と関心を持つ ・食べ物はそれぞれ食品によって、味や香りに特徴がある事を知る	・色々な料理に出会い発見を楽しんだり、考えたり、様々な文化に気づく ・健康と食べ物の関係について関心を持つ ・肉、魚、卵、牛乳、豆、小麦粉など身近な動植物から色々な加工食品ができる事を知り、自然の恵みと感謝の気持ちを持つ ・調理している人や地域の方々などに関心を持ち、感謝の気持ちを持つ ・挨拶や姿勢など気持ちよく食事をするためのマナーが身につく ・食材、色、形、香りなどに興味を持つ	・健康と食べ物の関係について関心を促すに当たっては、子どもの興味・関心を踏まえ、全職員が連携のもと子どもの発達に応じた内容に配慮する ・食品や料理を通して五感が発達するように創意工夫する ・給食メニューを発表する事で料理の名前を覚えたり、触れられるようにする ・子ども達の食事の様子を見ながら負担にならないように声をかけ知らせる
6才	・自分の身体に必要な食品の種類や働きに気づき、栄養バランスを考慮した食事を摂ろうとする ・身近な自然に関わり、世話をすることで、料理との関係を考え食材に対する感覚を豊かにする ・食事にふさわしい環境を考えて、ゆとりある落ち着いた雰囲気でする ・食べ物を通して日本の伝統と食文化に関心を持つ ・食習慣やマナーが身につく	・自分の健康に関心を持ち、必要な食品を進んで摂ろうとする ・調理してくれる人に感謝の気持ちを持つ ・自然の変化によって収穫されるものの大きさや出来具合が違ふことを知る ・食生活に必要な事を友達と共に協力して進めて、関わりを深め思いやりやの気持ちを大切にする ・色々な加工食品を見たり触れたりし、調理の方法や料理を知る	・食べ物は過剰に食べたり、欠乏する事により、心身の健康を害する事に気づくように配慮する ・買い物を通して食生活の関心を高めるようお手紙で伝えて家庭への協力を図る ・給食メニューを発表する事で料理の名前を覚えたり、触れられるようにする ・身近な動植物に関わって共感し合い、命を育み自然に感謝の気持ちが持てるよう、自ら関わりようとする意欲を大切にしている

ねらい	- 安全や危険の意味がわかり行動できる - 安全に必要な基本的な生活習慣や態度を身につける			
	I 期 (4・5・6月)	II 期 (7・8・9月)	III 期 (10・11・12月)	IV 期 (1・2・3月)
ねらい	散歩を通じて交通ルールを知る	様々な公共施設や交通機関に興味関心を持ち、交通機関の危険を知り気をつけていく	異年齢児の交流を通してルールやマナーを身につけていく	交通ルールや危険がわかり自ら気を付けていく
以上児	- 道の右側を歩く - 信号のない交差点では止まり、右・左右を見て渡る - 園外活動に行く	- 異年齢児と手をつないで散歩をする(小さい子を内側にする) - 信号のある大きい交差点を渡る(社会見学) - バスに乗って秋の遠足に行く - 社会見学に行きバスに乗る(年長児) - 園外活動に行く	- 異年齢児と手をつないで散歩をする(小さい子を内側にする) - 園外活動に行く	- 冬道の状態に合わせて歩くことができる - 防寒着を着て歩く - 園外活動に行く
未満児	- 園周辺の道路を歩く - ベビーカーやおんぶでの散歩をする - 乗り物の絵本や紙芝居を見る - 園外保育に行く	- 手をつないで歩く(保育者・お友達) - 交通安全に関する本・紙芝居を見る - ベビーカーやおんぶでの散歩をする - 園外保育に行く	- 以上児と手をつないで歩く - 保育者やお友達と手をつないで列になって歩く - 園外保育に行く	防寒着、長靴などを履いて歩く
配慮	- 園周辺の道路を歩くときの保育者の配置を確認する - 気をつけること(右側、手をつなぐ位置、前を向いて歩く等)を確認していく - 信号のない交差点での確認の仕方を保育者も一緒に声を出して行う	- 道路の状況や状態がわかって自分で気をつけて歩き、小さい子と手をつないでの歩き方を知らせていく - 信号の見方、横断歩道の渡り方など、交通ルールを身につける - バスの乗り方やマナーを知り気をつけるようにする - 公共の場でのマナーを知り、自ら気をつけられるように声をかけていく	- 道路の狭い所や、車の多い所など、自分で意識をして歩けるように言葉かけをしていく - 遊びの中で左右の意識や交通ルールに興味を持てるように工夫する	- 雪で道幅が狭くなっていることや滑りやすくなっている事など様々な道路の状況を自分で気づけるようにする - 滑りやすい所はどうやって歩いたら良いか、転ばないか等みんなで話し合う機会をもつ

令和7年度 さくら保育園 保健計画

年間計画	年間保健計画		IV期(1・2・3月)	
	年間保健計画			
	○生活リズムを整え、基本的生活習慣を身につける ○体のしくみを知り、体力づくりを通して自ら健康増進をはかる	II期(7・8・9月)	III期(10・11・12月)	○自分の健康に関心をもち、病気の予防等必要な活動を行う ○安心・安全な環境のもと、色々な遊びを通して身体作りをする ○出席停止、予防接種、アレルギー等について保護者と連絡を密に取る ○視診、触診、検温は毎日行い、健康的に過ごす為に感染症の早期発見予防に努める
目標	○一人一人の子どもの健康状態を把握し、園生活に慣れ安定感を持って過ごせるようにする ○衛生的な生活習慣を身につけ生理的欲求を十分に満たせるようにする ○思いやりや助け合う心を身につける	○夏の暑さに留意して、快適に生活できるようにする ○水遊びを楽しむ、健康増進をはかれるようにする ○ケガ防止に努め、戸外での全身運動をし、適度な運動、休息をとり、心身の疲れが癒されるようにする	○様々な運動遊びを通して、体力増進をはかる ○身体のしくみについて、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする ○風邪予防に努め健康増進に積極的にはかれるようにする	○雪遊びを通して体力増進と寒さに負けない体力づくりをする ○一人一人の子どもが集団遊びを通して主体として育ち、受け止められ自分を肯定できるようにする
活動内容	○園の生活リズムを身につける ○戸外遊び、散歩 ○身体測定 ○歯磨き指導	○水遊び ○戸外遊び ○散歩 ○運動遊び ○身体測定 ○歯磨き指導	○戸外遊び ○散歩 ○鬼ごっこ、ゲーム遊び ○歯科検診 ○身体測定 ○歯磨き指導	○雪遊び、雪中ゲーム大会 ○ゲーム遊び、ボール遊び ○鬼ごっこ ○サッカー交流大会 ○歯磨き指導 ○身体測定 ○内科検診
留意点	○健康調査票の内容を把握し、安全で健康的に過ごせるように配慮する ○除去食がある子には保護者からの聞き取りと医師による診断をもとに、除去の実施をする ○保育室の室温や湿度、換気を気を付け配慮する ○さくら保育園の安全対策マニュアルにそって保育室その他の整備、配慮をする ○歯磨きの大切さを知らせながら、歯磨きの仕方を丁寧に知らせていく ○子どもの発達と性に配慮して、着衣のまま行う ○目視や触診は複数の職員で行う	○水遊びには気温や日差しに気を付け、年齢によって遊ぶ時間に配慮する ○運動器具に慣れることから無理せず楽しんで取り組める環境作りに心がける ○子ども達の状態を把握し、十分な配慮、休息や水分補給をとりながら遊ぶ ○汗をかいた後の処理を自分で行う ○歯磨きの大切さを知らせながら、歯磨きの仕方を丁寧に知らせていく ○子どもの発達と性に配慮して、着衣のまま行う ○目視や触診は複数の職員で行う	○乾燥しがちになるので気温や湿度に十分気を付け、部屋の換気をする ○乾燥しているときは加湿器をつけたり、タオルを濡らして干し、湿度が保てるようにしていく ○流行ってきている感染症の人数クラス分布の統計をとって、合わせた消毒、清掃をする ○定期的に遊具玩具の消毒を行う ○歯磨きの大切さを知らせながら、歯磨きの仕方を丁寧に知らせていく ○子どもの発達と性に配慮して、着衣のまま行う ○目視や触診は複数の職員で行う	○雪遊びに必要な防寒具を身につけて寒さに対応できるようにする ○手洗いや かいの大切さを知り、風邪や感染症に対する予防策を自分で行うようにする ○乾燥しがちになるので室温や湿度に十分気を付け部屋の換気を定期的に行う ○乾燥している時は加湿器をつけたり、タオルを濡らして干すなど、湿度が保てようとしている ○流行ってきている伝染病の人数やクラス分布の統計をとって、それに合わせた消毒、清掃を行う ○定期的に遊具玩具の消毒を行う ○歯磨きの大切さを知らせながら歯磨きの仕方を丁寧に知らせていく ○子どもの発達と性に配慮して、着衣のまま行う ○目視や触診は複数の職員で行う
保護者への指導	○新入園児の健康調査票の記入 ○除去食の診断書提出 ○規則正しい生活習慣の大切さを知らせる ○薄着について ○手洗いがいい、十分な睡眠、規則正しい生活習慣で風邪予防を心がける ○感染症流行の周知や注意喚起	○夏の生活の仕方や感染症などの情報を知らせる ○薄着について ○内科検診の結果報告 ○手洗いがいい、十分な睡眠、規則正しい生活習慣で風邪予防を心がける	○流行ってきている感染症の園の状況を知らせ、予防対策について知らせる ○歯科検診の報告 ○手洗いがいい、十分な睡眠、規則正しい生活習慣で風邪予防を心がける	○手洗いがいい、十分な睡眠、規則正しい生活習慣で風邪予防を心がける ○流行っている感染症の園の状況や、予防対策について知らせる ○内科検診の結果報告 ○薄着について
環境整備	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃 ○水遊びの玩具は水洗いの後、日光に当てて乾燥させる ○運動用具等の用具の点検 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実に行う ○玩具類の消毒を行う ○部屋の換気をする ○身体測定を行う際は複数の職員がいる環境で行う。	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃 ○水遊びの玩具は水洗いの後、日光に当てて乾燥させる ○運動用具等の用具の点検 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実に行う ○玩具類の消毒を行う ○部屋の換気をする ○身体測定を行う際は複数の職員がいる環境で行う。	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実に行う ○玩具類の消毒を行う ○部屋の換気をする ○身体測定を行う際は複数の職員がいる環境で行う。	○救急用品の点検補充 ○室内外の安全確認マニュアルにそって点検 ○園内外の清掃 ○嘔吐及び下痢の処理の仕方を確実に行う ○玩具類の消毒を行う ○部屋の換気をする ○身体測定を行う際は複数の職員がいる環境で行う。

令和7年度 社会福祉法人 遠矢七五三会 さくら保育園 安全計画

月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
乳児		○一人ひとりの生活リズムを知り体や発達の状態、ミルクの飲み方好み癖などを把握し、安心して過ごせる環境を整える ○発達に応じた探索活動が十分に出来る安全な環境を整える ○玩具の大きさや素材などに十分に注意する ○SIDSの発生の予防のため睡眠状態を観察する(特にあずけ始めは注意が必要) ○睡眠時は嘔吐物や寝具などで口や鼻がふさがらないよう見守る ○抱っこやおんぶをしている時は周囲に十分気を付ける ○保護者と十分コミュニケーションを密に取り、子どもの状態や生活の様子等情報を保育園での生活に活かしていく											
	安全への配慮	○SIDS発生の予防のため睡眠状態を観察する(特にあずけ始めは注意が必要) ○一人ひとりの発達の状態や性格や好みなどを把握し安心して過ごせる環境を整える ○新しい環境による疲れ等個々の様子を十分に把握し健康状態に配慮する ○気温や湿度、室温をチェックしながら、適した温度や湿度を保つようにする。必要に応じて換気をする ○新しい環境、生活に必要な道具や場所の安全な使い方、約束を知る(室内、ホール、トイレ等) ○園外での遊び方、固定遊具の使い方、約束を知る											
安全指導	3才以上児	○暑い日の過ごし方を知る(熱中症予防、水分補給、汗の始末、休息等) ○戸外遊びの中、自分の状態がわかり、必要な休息の仕方を知る。 ○水遊びの約束を知り守って遊ぶ											
全体的な配慮事項		○毎日の出席、欠席、遅刻、早退児を把握し、職員間で共通認識をする ○欠席が続く時、連絡がつかない時は担当課に報告し情報共有し、安否確認を行う ○室内外の活動は常に子どもの行動の把握に努め、職員間の役割分担を明確にし声をかけ合って周りの状況、保育士の動きを把握できるように努める。○食事の際は注意事項(別紙)に添って一人ひとりの喫食状況や健康状態に十分気を付け、様子を観察する ○アレルギー児の把握、本児の健康状態、食品除去の把握など職員間で情報、対応の共有の徹底 ○水遊びは監視体制を整え、職員の配置など役割分担し、共通理解のもと遊びをおこなう ○散歩に出る時は事前に目的地や経路を確認し、お散歩カーやベビーカーなどの点検をし安全を確認し使用する ○園外に出る時は人数確認をこまめに確認する											
安全管理(施設・設備・園内外環境)		○安全チェックリストによる毎月の点検を行う。 ○固定遊具の点検 ○砂場の衛生管理、消毒を行う ○消防設備の点検(年2回)											
安全に関する組織活動	避難訓練	○地震 保育士の指示を聞き避難の仕方を知る ○防火映画 防火に対する意識を持つ	○地震 ホールでの避難の仕方をする	○火災 ポイラー室から出火想定避難の仕方を知る	○総合訓練 職員の通報、放送、消火の訓練 児童の避難の訓練を一緒に行う	○地震 園庭で遊んでいる時の避難の仕方を知る	○地震大津波 園避難所までの移動を経験する	○総合訓練 職員の通報、放送、消火の訓練 児童の避難の訓練を一緒に行う	○地震 不審者対応 落ちて着いて行動する	○竜巻 園竜巻警報が発令された場合の対応の仕方をする	○地震 雪遊びをしている中での避難の仕方を知る	○地震 不審者対応 玄関から侵入してこようとしている時の対応	○地震 ホールでの避難の仕方をする
	保護者・地域との連携	○緊急メールの手続きを行ってもらう ○感染症発症児が出た時は、保護者に周知し、症状等がある時は目玉にし、受診時に情報提供してもらうようにする ○園周辺の防犯の情報の一報が入った時は直ちに保護者に周知し、安全に配慮できるようにする ○新入園の保護者には保育園の決まりや災害時の約束などを知らせ、有事の際に保護者の状態などを知らせ、備えることの無いよう行動がとれるよう理解してもらう											
研修等		○ヒヤリハットの共有、分析 ○アレルギー児童の確認対応共有 ○安全マニュアルの確認 ○ケースの報告共有											
		○救命救急 ○安全計画の見直し											

発達・年齢別 保育内容 【6ヶ月未満】

6ヶ月未満		○体重、身長の著しい増加 ○首のすわり、活発な手足の動き、寝返り、腹ばいなどの全身運動 ○視覚、聴覚などの著しい発達 ○特定の保育者や大人との間に情緒的な絆			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○家庭との連携を密にとりながら、子ども一人一人の健康状態を把握する ○体、衣服など常に清潔にする	○子どもの健康状態に合わせた環境を整える ○安全で清潔な玩具を用意する	○一人一人の生活リズムを考慮する ○保育者の愛情や豊かな関わりの中で、生理的要求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする	○安心できる環境の中、一人一人がゆったりと過ごし、授乳や睡眠などの生活リズムが整うようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○人に対する信頼感が芽生え、安定感となっていくように、子供が示す様々な行動や欲求に適切に応える	○泣く、笑うことで周囲とのやり取りをするので、空腹時や快、不快などの表れに共感し、受け止め対応していく	○自分が受け入れられているという気持ちを育めるよう、生理的欲求や精神的欲求を満たしてあげる	○ミルクを与えるときやおむつ交換の時など、優しく声をかけたり微笑みかけたりして安心感を与える
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	伸び伸びと 健康な 育つ	○身体機能や感覚が著しく発達し、外気に触れたり、保健的で安全な環境でのびのびと手足を動かしたりする心地よさを知る ○おむつを取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる ○愛情豊かな特定の大人と過ごすことを喜ぶ		○保育者の声や物音に反応し、見つめたり喃語を発したり体を動かしたりして快・不快を表そうとする ○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動きで、感情を表現しようとする	
	身近な人と 通じ合う	○周りの音や会話の声に関心を示し、その方向を見る ○あやされて笑いかえす ○自分の周辺の出来事に関心を示す		○身の回りにあるいろいろな遊具、玩具等に触れて遊べるようになる ○不快を取り除いてくれる保育者の声を、心地よいと感じる ○何かに目を留めると、じっとそれを見てつかもうとする	
	身近なもの と関わり	○自分に応答的に関わる特定の保育者や大人の声や表情に安心感を覚え、感覚が豊かになる ○音に興味を持ち、音の出るものを喜ぶ ○柔らかいものや温かいものなどの感触を楽しむ ○戸外に出て植物や乗り物、動物を見て興味を持つ		○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで意思や欲求を表す ○特定の保育者や大人の声のする方をじっと見る	
		○生理的欲求を受け止めてもらったり優しい言葉かけを感じたりして、人に対する信頼感が芽生える ○泣く笑うなどの表情の変化や体の動きや喃語などで、自分の欲求を伝えようとする		○絵本等を通じて読んでもらったり、見せてもらう ○保育者や大人に言葉をかけてもらいながらミルクを飲む ○不快を取り除いてくれる保育者の声に応えて笑う ○自分が手に取ったものが動かすことで音がでることを知り楽しむ	
		○泣く、笑うなどの表情の変化や体の動き、喃語などで意思や欲求を表す ○快感、安心感や不快感、嫌悪感を感じることを表し、快感、安心感を感じるものを求めようとする			

発達・年齢別 保育内容 【6か月～1歳未満】

6か月～ 1歳3か月		○座る、はう、立つ、つたい歩き等の運動機能の発達 ○腕や手先を意図的に動かす ○探索活動の活発になる ○特定の大人との応答的な関わりによる情緒的絆が深まる ○あやしてもらおうと喜ぶなどやり取りが盛んになる ○離乳食から幼児食へ徐々に移行する				○人見知りをするようになる ○自我が芽生える ○大人から自分に向けられた気持ち、簡単な言葉がわかるようになる ○身近な大人との関係の中で自分の意思や欲求を身振りなどで伝えようとする			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする		2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする		3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする		4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする	
養護	生命	○家庭との連絡を密に取りながら、子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合は適切に対処する		○家庭と連携を密にとりながら一人一人の健康状態を把握し、発育、発達に応じて関わる		○保育者の愛情豊かな関わりの中で、生理的欲求を満たし、気持ちよく生活ができるようにする		○子どもが自分でやりたいという気持ちを受け止め、援助しながら満足感が感じられるようにする	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする		2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする		3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする		4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする	
養護	情緒	○保護者と密に連携を取り、子どもの気持ちを共有し、必要な対応を継続する事で安定感を持って過ごせるようにする		○子どもが気持ちを表現する喃語や身振りなどに優しく繰り返し応答していく		○自分以外の他人という存在を認め、自分の行動や存在を肯定する気持ちが育まれるように信頼関係を築いていく		○心が癒されるように視線を合わせたり、優しく声をかけたりする。微笑みかけたり喃語や声、表情に応えたりする。	
保育のねらい		1) 心情			2) 意欲		3) 態度		
教育	伸びやかな保育	○運動機能が発達し、自由に手足を使い周囲の人や物に興味を持ち探索活動を楽しむ ○あやしてもらおうと喜ぶ等、生活や遊びの中、身近な人に興味を持つ ○身近な大人との関わりを楽しむ ○指差し、身振り、喃語で気持ちを表す			○自由に移動できる喜びと身近な環境への働きかけで好奇心がより旺盛になる。 ○短い言葉の中に込められた思いを保育者や大人にくみ取ってもらうことで思いを伝える意欲が高まる ○受動的に関わる大人とのやり取りを楽しむ		○応答的な環境の中で特定の人との絆を深める ○同じものを見つめて共有して、大人とのやり取りを心地よく感じ、様々な経験を繰り返し試す ○離乳食から幼児食へ移行する ○身振りを真似するなど自分から関わろうとする		
	身近な人と気持ちを通じ合う	○異年齢児との触れ合いを持つようになる ○情緒的なつながりの中であやしてもらおう事を心地よく感じる ○反復喃語が始まる ○情緒的、動作認識が発達する ○身振りや喃語で保育者とのやり取りを楽しむ			○気に入った玩具を手にして遊んだり、色々な素材の遊具で遊んだりする ○整えられた環境のもとで安全に活動できるようにする ○安心ができる大人がゆっくり優しく語りかけることで、口元の動きを模倣し声をだし言葉を真似ようとする		○絵本等を通じて読んでもったり、見せてもらう ○基本的な生活習慣を繰り返し体験していく ○正しい調音の模倣はできないが、模倣を繰り返し楽しむ		
	身近なものとの関わり	○周囲の人や物に興味を持つ ○興味を持った素材に触れて感触を楽しむ ○大人に歌をうたってもらおう事を楽しく感じる ○戸外に出て植物や乗り物、動物を見て興味を持つ			○身近な大人に対し、意思や要求を表情や身振りで伝えようとする ○大人の歌に合わせて体を揺らしたり、リズムをとったりする		○大人の歌に合わせて体を揺らしたり、リズムをとったりする		

発達・年齢別 保育内容 【1歳～2歳未満】

1歳3か月～2歳未満		○自発的に身近な人や周りの物に働きかける ○歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得していく ○物のやり取りや取り合いが増える		○大人の簡単な言葉がわかり行動ができる ○自分の意思を大人に伝えようとする意欲が高まる ○指さし、身振り片言などを盛んに使う ○玩具等を実物に見立てるなどの象徴機能の発達により人との関わりが強まる	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の心身の発達状況を把握する ○室内外の温度や湿度に留意し衣服の調節をする	○歩行確立により行動範囲が広がり、歩き始めて歩行が安定しないため、事故防止に努める	○子ども一人一人の心身の発達・発達状況を把握する ○子ども一人一人の癖や特徴を把握する	○子どもが自分でやりたいという気持ちを大切に、意欲的に生活できるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○子ども達が安心して生活できるように信頼関係を築き、探索活動を安全な環境の中、十分楽しめるような工夫をする	○子どもの言葉や指すものを理解し、興味や気持ちに寄り添いながら言葉にして返していく ○自己主張を受け止めながらぶつかり合いの仲立ちとなり、適切に自ら表現しようとする心を育んでいく	○自分でやろうとする意欲を受け止め認めていく ○友達や周囲への興味や関心が高まり、子ども同士関わっていく	○心地よい環境の中、保育者とスキンシップをはかり、心の安定が得られるようにする ○自我の芽生えを喜び受け止めてもらう事により、気持ちを立て直していく心が育まれるようにしていく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
教育	健康	○歩行が確立し、身近な人や身の回りの物に自発的に働きかけながら好きな遊びに取り組む ○象徴機能が発達し、玩具を仲立ちして見立て遊びを楽しむ		○友達の仕草や行動を真似たり、やり取りが広がる ○行動範囲が広がり身近な環境への働きかけで好奇心旺盛になる ○身のまわりの事を自分でしようとする	
	人間関係	○友達や周囲の人への興味や関心を持ち、一緒に過ごす事の喜びを味わう		○身近な大人や友達に関心を持ち、親しみを感じて関わろうとする	
	環境	○戸外遊びを通して草花、昆虫を見ることにより興味を持ち情緒を培う ○玩具を使った遊びの中で友達と関わりを持って遊ぶ		○異年齢児との触れ合いの中で遊具、玩具の遊びを通し、見たり触れたりして自分もやってみようとする	
	言葉	○言葉を使い始める ○指さし、身振りなどで自分の気持ちを表す ○二語文を話す		○経験の中で得た簡単な言葉を使って自分の気持ちを表そうとする	
	表現	○美しいものを好み、楽しむ ○好きなものが出てくる ○イメージを膨らませてその世界を自分で楽しむ		○指さしや身振り、片言等で親しい大人に対し自発的に意思を伝えようとする ○興味のある物を模倣をしようとする ○二語文を話し、意思を伝えようとする	
		3) 態度		○大人の言う事がわかり、自分で訴えるようになる ○信頼できる大人の存在により自信を持って物事に取り組むようになる	
				○様々な遊びを通して同じ事を楽しみ、子ども同士の関わりを持つ	
				○友達(他人)の持ち物がわかり名前が言える ○玩具などの色、形、数などの言葉がけをして繰り返し行い、理解しようとする	
				○保育者等の応答的な関わりによって、片言、一語文。二語文を獲得する	
				○イメージを膨らませて、玩具や抽象的な実物に見立てる事ができる ○好きな絵本や歌がある	

発達・年齢別 保育内容 【2歳】

2歳		○歩く、走る、飛ぶなどの基本的な運動機能、指先の機能の発達 ○身の回りのことを自分でしようとする ○友達を気にしたり、関わり、遊ぶことができる ○自分の意思や欲求を言葉で表現できる ○探索活動の活発化、自我の育ち、強い自己主張 ○物事の間の共通性を見い出す ○簡単なごっこ遊びを楽しむ			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態を把握し、保健的で安全な環境をつくり、生活習慣の自立を援助する	○運動機能の発達に伴い子どもの行動範囲や危険等十分に予測し、環境の安全管理に配慮する	○家庭との連携を十分にを行い一人一人に合わせて適切な生活リズムを整えていく	○楽しい雰囲気の中で食事を食べる事への興味、食物の味を知らせ、食べる楽しさを味わえるようにしていく
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○運動、指先機能が発達し、行動が十分楽しめるように一人一人の発達過程を把握し、要求を満たしながら安全な環境づくりをする	○自己主張が強くなり、ぶつかり合いが多くなる中、保育者が仲立ちとなり安心できる環境を整え適切に自己表現を育んでいく	○子どもの成長、動きを把握し、気持ちの受容を共感しながら信頼関係を築き、自信につなげて意欲を受け止めていく	○自我の芽生え、自己主張等を受け止め喜怒哀楽を豊かにし、気持ちを抑えたり、立て直しができる心を育んでいく
保育のねらい		1) 心情	2) 意欲	3) 態度	
教育	健康	○運動、指先機能の発達に伴い保育者、友達との関係を広げ十分に体を使って遊ぶ ○ごっこ遊び、リズム遊び等を楽しむ	○食事、衣服の着脱、排せつ等の生活に必要な活動を自分でしようとする	○自我が育ち、自己主張や葛藤を経験する ○保育者との信頼関係を築き自信と安心を持って取り組む ○様々な遊びの経験の中で、簡単な良し悪しを学び、危険等の意識を持つていく	
	人間関係	○身の回りの事を自分でする事が出来たことの喜びを保育者と一緒に味わう ○保育者、友達との信頼関係を持ち、安心感を持って生活する事の喜びを味わう	○自分の意見や意欲を認めてもらう中で自己アピールしたり自信を持ち活動しようとする	○大人に見守られながら自分でできる事は自分でしようとする ○信頼関係を持ち安心して自分の意見を表そうとする	
	環境	○散歩や遊びを通じてその季節に親しみ、変化に触れ探索活動が盛んになり関心を持つとする	○自分の身の回りの事はできるだけ自分でしようとする ○食器、食具の持ち方、姿勢の習得、排泄の自立など大きな成長が見られる	○保育者や友達と一緒に様々な遊びを楽しむに好きな玩具や遊具に興味を持つ ○「自分で」との主張が見られる ○物の貸し借りのトラブルが増える	
	言葉	○自分の意見や要求を言葉で表現したやり取りをすることを楽しむ ○言葉や話に興味を持ち、親しみをもちって繰り返し使おうとする	○保育者等を仲立ちとして、遊びの中で言葉のやり取りを楽しむ ○保育者、友達の言葉に興味関心を持つ ○生活、遊びの中で言葉が増え、やり取りを楽しみ、使い方を知っていく	○保育者、友達との関わり遊びの中で言葉の数が増える ○絵本に親しみ、興味を持ち言葉を模倣し繰り返す事を楽しむ	
	表現	○自我が芽生え始め好き嫌いを主張しようとする ○自然に十分に触れ、光、水、砂、土等の感触に慣れ親しみをもち ○紙、粘土、製作道具に触れ興味をもちって楽しむ	○言葉が増え要求、主張を言葉で表現しようとする ○保育者、友達と一緒に自然に触れ様々な感触に気づいたりする ○興味のある物を模倣し自由に表現する	○大人と一緒にごっこ遊びを楽しむ中、イメージを膨らませ象徴機能の発達が見られる ○保育者と一緒に歌ったり手遊びをしたりリズムに合わせて体を動かして遊ぶ	

発達・年齢別 保育内容 【3歳】

3歳		○基本的な運動機能の伸び ○食事、排泄、衣類の着脱などがほぼ自立する ○話し言葉の基礎が出来上がる ○知的興味や関心の高まり				○自我がよりはっきりすると共に友達との関わりが深まるが平行遊びが主となる ○遊びに経験を取り入れるなど内容の発展性が見られる ○予想や意図、期待を持って行動できる				
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする		2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする		3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする		4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする		
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態や発達を把握し、快適に過ごせるようにする		○施設内外の環境を整え安全に十分に配慮し、健康や安全の大切さに触れる ○保護者との連携を図り疾病予防に努める		○子どもの発達に応じ適切な援助や関わりを通じ、生理的要求を満たしながら生活リズムをつくっていく		○子どもの発達を見通し適度な運動、休息がとれるようにし、基本的生活習慣が形成されるようにする		
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする		2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする		3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする		4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする		
養護	情緒	○子どもの主体性を育みながら様々な要求を受け止め安心感へとつなげる		○一人一人の欲求を受け止め、友達と上手に関わりが持てる言葉かけや見守りで援助する		○なぜ、どうしての興味への広がりには適切に応え、応答的な触れ合いを持つ		○お手伝い等の活動でねぎらいや感謝の言葉をかけ、心地よさや安心感を知らせ、受け止める		
保育のねらい		1) 心情			2) 意欲			3) 態度		
教育	健康	○運動機能が発達し、自由に伸び伸び遊びを楽しむ ○戸外遊びで十分に体を動かしたり、様々な遊具、用具に関わり遊ぶ楽しさを味わう			○基本的生活習慣を進んで行い生活に見通しを持つ ○興味関心が広がり遊具や用具に工夫を加え遊ぼうとする			○身のまわりの事が自分でできるようになってきて、自分の気持ちを大切にすること ○約束、ルールを守る大切さに気づき、危険に対し少しずつ意識を高める		
	人間関係	○身近な人との関わりを喜び、共感しながら楽しさを味わう			○様々な要求を受け止めてもらう事で、安心感を覚え相手の気持ちにも気付いていく			○友達との関わりを深め共感しながら遊びを楽しむ ○共同の遊具を大切に扱う		
	環境	○室内外での遊びを通じ、経験した事を遊びにつなげ、豊かな感性や興味が広がる			○基本的生活習慣が身につく生活の仕方を知る ○友達との関わりが多くなり、互いに関わり方を知る			○基本的生活習慣が身につく ○友達との関わりの中で見守られながら、相手の気持ちにも触れていく		
	言葉	○言葉の発達が著しく、思った事感じたことを言葉に表し、言葉のやり取りを楽しむ			○興味を持った事、不思議な事について質問をする ○自然や生活の中で不思議に思う事等を言葉で伝えようとする			○質問ややり取りを通じ思った事を言葉で表現する ○表現した気持ちを互いに受け止める		
	表現	○様々な物を見たり触れたり、面白さや色、形に気づき感性を豊かに持つ ○遊び歌を繰り返し楽しむ			○身近な人の行動や興味を持った物を模倣し楽しむ ○一緒に絵本、絵画、歌に親しむ			○生活を取り入れたごっこ遊びを楽しむ ○絵本を読んだり絵を描くことを一緒に楽しむ ○音楽に親しみ歌う事の楽しさを味わう		

発達・年齢別 保育内容 【4歳】

4歳		○全身のバランスを取る能力が発達し、動きが巧みになる ○身近な環境に積極的にに関わり、物の特性を知る ○想像力が豊かになり、目的を持って行動する ○仲間との強いつながりから、喧嘩が増してくる ○決まりの大切さに気付き、守ろうとする ○身近な人の気持ちを察したり、自分の気持ちを抑えるなどの我慢が出来る			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態や発達を把握し適切に対応し自ら気をつけるようにする	○子どもの健康や安全の大切さを知らせ安全な環境づくりに努める	○子どもが食事・排泄・睡眠・休息等に生理的要求を満たせるようにし、安心して自分の気持ちを表せるように応答的な関わりを心がける	○子どもの発達を見通し、全身を使う運動を適度に取り入れ、それぞれに合った活動が出来るようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○日々の生活や遊びの中に安心感を持ち、伸び伸びと友達と関わっていけるように援助する	○友達同士の遊びを豊かにし、友達との関係の中で徐々に自分を発揮できるように援助する	○お互いの存在や良さを認め合えるように集団の中で一人一人の良さを活かしていく	○生活の中で与えられた役割を責任を持って果たすことができ達成感を味わえるよう言葉がけを工夫する
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	健康	○全身を使い自然や様々な遊具や物と関わって運動量の多い遊びに挑戦する ○活動と休息のバランスのとれた生活リズムに心地よさを感じる		○五感で感じた事を発展させ、想像しながら遊ぼうとする ○目的を持ち予測して行動しようとする ○十分に遊んだ後は自ら水分や休息を取ろうとする	
	人間関係	○仲間という事の喜びや楽しさをより感じながら仲間とのつながりを深める ○友達と一緒に活動する楽しさを知る		○友達の良さに気づき一緒に活動する事をしようとする ○関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の気持ちにも気づき優しさや思いやりに触れる	
	環境	○自然等の身近な環境に積極的にに関わり様々な物の特性を知り、関わり方や遊び方を体験していく		○目的を持って行動し、造る、描く試す事で想像を豊かにしていく	
	言葉	○経験したことや思った事を話し、言葉で伝える楽しさを味わう ○自分の名前や文字に興味を持つ		○友達同士、言葉で伝え合いながら遊びの状況を理解しようとする ○興味を持った文字を探し読んでみようとする	
	表現	○生活の中で様々な音、形、手触り、動き、味、香り等に気づいたりして楽しむ ○感動を伝え合う楽しさを味わう ○色々な素材、用具、表現法に関心を持つ		○友達とイメージを言葉にして共有し、一緒に表現しようとする事を楽しむ ○イメージや目的を持って作ったり描いたりする ○音楽に合わせて歌ったり踊ることを楽しむ	
		○決まりごとの大切さに気づき守ろうとする ○身近な人の気持ちを察し少しずつ感情のコントロールをする		○会話を通し友達との楽しさを感じるようになり、友達とのつながりを深める	
		○色々な素材や道具を使い、より広いイメージの世界を絵や製作物に表そうとする ○興味を持ったものを見たり集めたりする			

発達・年齢別 保育内容 【5歳】

5歳		○基本的な生活習慣が身に付く ○運動機能がますます伸び、喜んで運動遊びをしたり活発に遊ぶ ○言葉による共通のイメージを持つ ○目的に向かって集団で行動する ○自分なりに考えて判断したり相手に伝える力が身につく ○社会生活に必要な基本的な力を身につけていく ○仲間の一人としての自覚が生まれる			
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の健康状態を把握し、異常のある場合には自ら伝えられるようにする	○子どもの疾病や事故防止に関する意識を持ち、安全な環境づくりと事故防止に努める	○生理的欲求が満たされる事の大切さを知らされる	○運動と休息の適切なバランスや調和を図りながら、基本的な生活習慣が身につくようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○一人一人の発達に合った遊びや生活の環境を構成し、時には励まし言葉をかけながら子供が様々な活動に安定的に関われるようにする	○集団生活の中で安心して言葉による伝達や対話ができるよう、日ごろから保育者や友達との信頼関係を築ける関わりをしていく	○他者から自分の存在を認めもらう事の喜びを感じ自己肯定感を育てていくように関わる	○誰かの為に働くことは自分の喜びにつながる事を一緒に体験し、その喜びを共感していく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	3) 態度
教育	健康	○保健的で安全な場所で思い切り遊べる心地よさを知らせる		○五感で感じた事を発展させ、想像しながら遊ぼうとする ○目的を持ち予測して行動しようとする ○十分遊んだ後は自ら水分や休息を取ろうとする	○遊びを発展させるために自分たちで考えを判断し、危険な場所や遊びを知り調整しようとする態度が生まれる
	人間関係	○予想、見通しを立てて自分で行動できる事に自信を持つ ○生活や遊びの中で決まりがあることに気づき、考えながら行動する		○友達との関わりの中で自分の思いを伝えたり相手の話を聞いたり優しさや思いやりを持つ ○友達との共通の目的を持ち協力してやり遂げようとする	○相手を許したり、違う思いを認めたり、友達の良いところに気づき一緒に活動する楽しさを味わう ○物事の良し悪しに気づいていく
	環境	○園外での活動で違う環境に関心を持ち、その中で遊びや楽しさを見つける		○遊びの中で仲間意識を大切にし、色々な知識や経験を生かして工夫していけるようになる ○行事を楽しみながら待ち保育者に教えられた事を覚えていく	○絵本、紙芝居等を通じて言葉、文字、数、量、図形に興味を持って読んだり書く事を覚える ○色々な経験を通じて自立心が出てくる
	言葉	○自分で考えた事を言葉で表現をしたり、友達の意見を聞いたり気持ちを理解できたりする喜びを感じる ○自分の思いや要求、主張を言葉で伝える		○友達の主張に耳を傾けながら一つの目的に向かって一緒に行動しようとする ○自分の名前や五十音がわかり文字に表そうとする	○絵本や物語を通じ言葉を交わしたり友達や保育者とイメージを広げ楽しむ ○目的に向かってみんなで行動する
	表現	○色々な素材や用具を使っでの表現方法に関心を持つ ○友達や保育者に自分で作った物を見せたり友達と一緒に表現する事を楽しむ		○思っている事を言葉や動きで表現し、演じて遊んだり描いたり作ったりする ○生活の中で色々な事に触れ感情イメージを豊かにする	○描いたり作ったりしたものを見せあったり飾ったりする ○友達と共通の遊びを通しイメージを広げ遊びを発展させる

発達・年齢別 保育内容 【6歳】

6歳		○全身運動が滑らかで巧みになる ○自信を持って、予想や見通しを立てる力が育ち、意欲が旺盛になる ○自然事象や社会事象、文字などへの興味や関心が高まる		○役割分担が生まれるような共同遊びやごっこ遊びに満足するまで取り組む ○様々な経験を通して自立心が一層高まる ○自分達で決まりをつくる	
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、快適に生活できるようにする	2) 一人一人の子どもが、健康で安全に過ごせるようにする	3) 一人一人の子どもが、生理的欲求が、十分に満たされるようにする	4) 一人一人の子どもが、健康増進が、積極的に図られるようにする
養護	生命	○子ども一人一人の発達状態を把握し、子どもが自らの体の異常を訴えられるようにする	○家庭との連携を密にし、子供の疾病や事故防止に関する認識を深め安心安全な保育環境をつくる	○生理的要求が満たされ、その大切さを知り自主的に生活が出来るようにする	○子どもの発達に応じて適切な運動を楽しめるようにする ○子どもが休息の大切さを知り自らとれるようにする
保育のねらい		1) 一人一人の子どもが、安定感を持って過ごせるようにする	2) 一人一人の子どもが、自分の気持ちを安心して表すことができるようにする	3) 一人一人の子どもが、周囲から主体として受け止められ、主体として育ち、自分を肯定する気持ちが育まれていくようにする	4) 一人一人の子どもが、くつろいで共に過ごし、心身の疲れがいやされるようにする
養護	情緒	○一人一人の子どもの心身の状態を把握しその発達を援助する	○友達の主張に耳を傾け共感したり積極的に意見を言い合ったりできるような関係づくりをしていく	○仲間との葛藤を体験しながら互いを認め合い自らも肯定する気持ちが促されるように、一人一人の子供たちの育ちを認めていく	○達成感や自信を持つことで充実感を味わえるように保育者もその成長を認め一緒に喜び、子どもの心の安定を得られるようにしていく
保育のねらい		1) 心情		2) 意欲	
教育	健康	○全身運動が滑らかで巧みになると同時に手の動きが細やかになり自信を持って活動できる喜びを味わう ○元気に活動するためには生活リズムや食事、排泄、病気の予防などが大切な事に気づく		○自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んでしようとする ○災害や危険への認識がより一層高まる	
	人間関係	○予想や見通しを立てて自分の力で行動できる事に自信を持つ ○生活や遊びの中で決まりを守り考えながら行動する		○仲間の意思や仲間内で通用する約束事を大切に、守ろうとする ○友達との共通の目的を持ち協力して物事をやり遂げようとする	
	環境	○自信や予想見通しを立てる力が育ち、心身共に力があふれ意欲が旺盛になる		○遊びの中で仲間の意思を大切にしていき、様々な知識や経験を生かし創意工夫ができるようになる	
	言葉	○自分の考えた事を言葉で表現する事で、友達の意思や仲間内の約束事を大事に出来るようになる ○生活の中や絵本にある言葉の楽しさに気づき、文字で表す楽しさを味わう		○友達の主張に耳を傾け、一つの目的に向かって行動する ○自分の名前や五十音がわかり、文字に表そうとする	
	表現	○友達や大人に自分の表現した物を見せたり聞かせたりする事を楽しみ意見を求める ○友達と一緒に表現する事を楽しむ ○言葉への興味、関心がより高まる		○友達の意思を大切にしようとする ○イメージを動きや言葉等で表現したり演じて遊んだり楽しさを味わう	
				○健康に必要な日々の生活習慣を自ら進んで確立していく ○危ない遊びや非常時の行動がわかり保育者の指示を理解し危険を回避する行動がとれる	
				○協調、協力して物事をやり遂げようとする ○物事の良し悪しに気付いて考えて行動する	
				○思考力や認識力が高まり、自然事象や社会事象への興味や関心が高まり、それに伴い様々な経験を通して自立心が高まる	
				○意見を調整しながら友達との中で合意をえて、遊びを広げる ○文字に親しみ活動の中で伝え合う喜びを感じる	
				○友達とイメージを共有した上で役割を分担し、共同遊びやごっこ遊びを満足いくまで行う ○経験したことや感じた事、考えた事を言葉で伝える	